

【目次】

I. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
1. 学生の確保の見通し	2
1) 入学定員設定の考え方	2
2) 定員充足の見込み（概要）	3
3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	5
(1) 看護系大学院数及び入学定員の推移	5
(2) 本学修士課程修了生の博士後期課程への進学意向	6
(3) 本学修士課程在学生の博士後期課程への進学意向	7
(4) 本学看護学科在学生の博士後期課程への進学意向	8
(5) 本学看護学科専任教員の博士後期課程への進学意向	9
2. 学生確保に向けた具体的な取組状況	10
1) 学生確保の取組	10
2) 学生納付金の設定の考え方	11
II. 人材需要の動向等社会の要請	12
1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	12
2. 1. が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの 客観的な証拠	13
1) 社会的、地域的な人材需要の動向	13
2) 新見市、新見市議会及び関連機関からの要望書	14

I. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1. 学生の確保の見通し

1) 入学定員設定の考え方

新見公立大学看護学研究科看護学専攻には、現在、修士課程(地域生活支援看護学支援領域、療養支援看護学領域)のみ設置されており、5人の入学定員を設けている。今回、中山間地域の全世代型地域包括ケアシステムの構築に向けて、課題解決に取り組む実践的指導者ならびに研究者、教育者の育成を目指して、修士課程の上に博士後期課程を設置する。それに伴い、修士課程を博士前期課程へ名称変更する。博士後期課程の専任教員は14人(教授12人、准教授2人)を予定しており、博士後期課程の入学定員は、後述する他大学の入学定員や既設の本学修士課程の入学定員及び収容人数との均衡、種々のアンケート調査の結果を勘案し、2人に設定した。

2021年5月時点で、岡山県内の看護系大学院を設置している大学は6校(国立1校、公立2校、私立3校)あり、うち博士後期課程を設置している大学は3校(国立1校、公立1校、私立2校)のみである(資料1)。各大学の博士後期課程の入学定員は、国立の岡山大学大学院保健学研究科保健学専攻が10人(放射線技術科学分野、検査技術科学分野を含む)、公立の岡山県立大学大学院保健福祉学研究科保健福祉科学専攻が5人(栄養学大講座、保健福祉学大講座を含む)、私立の川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健看護学専攻が2人、吉備国際大学大学院保健科学研究科保健学専攻が3人である。このうち、岡山大学大学院保健学研究科保健学専攻と岡山県立大学大学院保健福祉学研究科保健福祉科学専攻については、看護学以外の分野・講座を含めて入学定員を設定しているため、看護学領域のみの入学定員は不明確であるが、仮に入学定員数を分野数・大講座数で等分すると、看護学領域の入学定員はそれぞれ3.3人、1.6人となる。よって、この国公立2校に私立2校を合わせた4校の平均入学定員は2.47人となる。

以上、他大学の入学定員に加えて、本学の教員組織、施設・設備の教育研究等環境、後述するアンケート調査の結果を考慮して、定員数を2人に設定することが妥当であると判断した。

資料1 一般社団法人 日本看護系大学協議会 2021年度会員校 (大学院一覧)

2) 定員充足の見込み(概要)

近年の相次ぐ看護系大学の新設と既設看護系大学の量的拡大等により、全国の看護系大学では、教員の確保と看護教員の質の向上が課題となっている。日本看護系大学協議会が2020年度に会員校に実施した調査によれば、看護系大学の大学院博士後期課程修了生285人のうち、166人(58.2%)が大学・短期大学・研究機関等に就職しているが(資料2)、看護教員の数は依然として不足している。日本看護系大学協議会が2021年に会員校を対象に実施した「教員数に関する調査」によれば、過去6年間に、当該年度の4月1日時点で教員定数を充足できないことがあったと回答した看護系大学は、国立大学84.0%、公立大学88.9%、私立大学77.4%となっている(資料3)。

資料2 日本看護系大学協議会 データベース委員会

『2019年度(2020年度実施)看護系大学に関する実態調査』p130

資料3 一般社団法人日本看護系大学協議会 大学運営・経営委員会

『教員数に関する調査結果』

さらに、本学が位置する新見市に代表される中山間地域においては、良質で適切な医療を効果的かつ効率的に提供する医療提供体制の構築と、在宅医療や介護サービスの充実等による地域包括ケアシステムの構築を一体的に推進することが求められている。その中心的役割を担う優れた看護系人材の養成を使命とする看護系大学への期待はますます大きくなっている。この人材養成にかかわる看護系教員は、看護学に関する高度かつ専門的な知識と技術を有する看護系大学院博士後期課程修了者であることが望ましいが、2020年時点の看護系教員の最終取得学位は、修士が5,038人(55.9%)であるのに対して、博士は3,191人(35.4%)にとどまっている(資料2)。

看護系大学院数及び入学定員数は年々増加傾向にあるが(資料4)、まだまだ進学ニーズを充足できていない状況にある。2019年時点で、修士課程を有する看護系大学院数は180校、博士後期課程を有する看護系大学院数は99校に及び、2020年の大学院修士課程の志願者数は2,476人であり、入学者数1,792人に対する実質倍率は1.4倍、博士後期課程では志願者数は656人であり、実質倍率は1.3倍となっている(資料2)。公立の看護系大学の大学院博士後期課程に限定しても、入学定員数

は103人、志願者数は145人、入学者数は107人となっており、入学者に対する実質倍率は1.4倍となっている(資料2)。

このように修士課程のみならず、博士後期課程への進学ニーズは高く、本学博士後期課程の定員2人の継続的な確保は可能であるといえる。

資料2 一般社団法人日本看護系大学協議会 データベース委員会
『2019年度(2020年度実施)看護系大学に関する実態調査』
p120, p127-128

資料4 文部科学省 2019年度 看護系大学に係る基礎データ

過去5年間の既設の本学大学院修士課程の入学者数は1~5人(入学定員の20~100%)であるが、長期履修者も含む在籍者数は7~13人(収容定員の70%~130%)おり、条件が整えば、本学修士課程修了後に引き続き、本学博士後期課程へ進学するケースも若干名あると見込んでいる。実際、本学修士課程修了生を対象にしたアンケート調査において、本大学院博士後期課程への進学意向を示した者は1人(5%)であったが、自由記述欄において「ぜひ進学を検討させていただきたい」「何かしら、修了生として大学と関わりたい」「学びやすい大学院だと思う」など、進学に対して前向きな姿勢を示す者は複数いた(資料5、資料6、資料7)。また、本学修士課程在籍生を対象としたアンケート調査においても、本学博士後期課程へ「進学したい」と回答した者は0人(0%)であるものの、「機会があれば進学したい」、「今後、必要を感じた場合には進学を考える」と回答している者はそれぞれ2人(33%)おり、今後内部からの進学も十分期待できる(資料8、資料9)。

- 資料5 【修士課程修了生対象】**
大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査 依頼文書
- 資料6 【修士課程修了生対象】**
大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査 アンケート
- 資料7 【修士課程修了生対象】**
大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査 調査結果
- 資料8 【修士課程在籍生対象】 博士課程に関するアンケート**
- 資料9 【修士課程在籍生対象】 博士課程に関するアンケート調査結果**

本大学院修士課程修了生や在学生に加え、本大学看護学科在学生や看護学科専任教員においても潜在的進学希望者は一定数いると考えられる。本学健康科学部看護学科に在籍している学生を対象とした調査において、博士後期課程への進学について、「とても関心がある」または「やや関心がある」と回答した者は 59 人(28.1%)、本大学院の博士後期課程へ「進学したい」または「機会があれば進学したい」と回答した者は 38 人(18.1%)いた(資料 10、資料 11)。また、本学看護学科専任教員を対象としたアンケート調査においても、本大学院の博士後期課程へ「進学したい」が 0 人であったが、「機会があれば進学したい」1 人(16.7%)、「今後、必要を感じた場合には進学を考える」が 4 人(66.6%)いた(資料 12、資料 13)。

このように将来的に本大学院の博士後期課程へ進学したいと考える学生や看護学科専任教員は一定数おり、継続的に本大学院の特色や魅力を伝えるとともに、就業しながら学業を継続できるような環境を整えることで、安定的な学生の確保は十分可能であると判断される。

資料 10 【看護学科在学生対象】 博士課程に関するアンケート

資料 11 【看護学科在学生対象】 博士課程に関するアンケート調査結果

資料 12 【看護学科教員対象】 博士課程に関するアンケート

資料 13 【看護学科教員対象】 博士課程に関するアンケート調査結果

3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(1) 看護系大学院数及び入学定員の推移

看護系大学院数及び入学定員数は年々増加傾向にある。2019 年時点で、修士課程を有する看護系大学院数は 180 校、博士後期課程を有する看護系大学院数は 99 校に及ぶ。修士課程および博士後期課程を有する看護系大学院数の増加に伴って、定員数も年々傾向にあるが、修士課程の入学定員数と比べて、博士後期課程の入学定員数の増加の伸びは小さくなっている(資料 4)。

このように看護系大学院数及び入学定員数は増加しているが、まだまだ進学ニーズを充足できていない状況にある。このことは、大学院の修士課程及び博士後期課程の志願者数が一貫して入学定員数を上回っていることから明らかである。2020 年の大学院修士・博士前期課程の志願者数は 2,476 人であり、入学者数 1,792 人に対する実質倍率は 1.4 倍である。博士後期課程では、志願者数は 656 人であり、実質倍率

は1.3倍となっている(資料2)。大学院志願者が入学定員数を上回る状況は今後も続くと思込まれる。

資料2 一般社団法人日本看護系大学協議会 データベース委員会
『2019年度(2020年度実施)看護系大学に関する実態調査』 p127

資料4 文部科学省 2019年度 看護系大学に係る基礎データ

また、看護系大学院数及び入学定員数が増加したことで、各大学の看護系教員の修士・博士の学位取得率は増加している。日本看護系大学協議会が会員校289校を対象に実施した調査によれば、2020年時点の看護系教員の最終取得学位は、修士が5,038人(55.9%)、博士が3,191人(35.4%)となっている。設置主体別でみると、国立大学では博士が55.2%、修士が41.3%、公立大学では博士が38.5%、修士が53.3%、私立大学では博士が30.6%、修士が59.6%である(資料2)。大学設置基準では、博士の学位を有することが教授職及び大学院の教員の資格要件のひとつとされており、最終取得学位が修士である看護系教員は博士の学位を取得するため、将来的に博士後期課程への進学を希望する可能性は高い。

以上のように、修士課程のみならず、博士後期課程の進学ニーズは今後も高く、本学博士後期課程の定員2人の継続的な確保は可能であるといえる。

資料2 一般社団法人日本看護系大学協議会 データベース委員会
『2019年度(2020年度実施)看護系大学に関する実態調査』 p120

(2) 本学修士課程修了生の博士後期課程への進学意向 (資料5、資料6、資料7)

2021年3月から6月にかけて、本大学院修士課程修了生25人を対象に本大学院での学びと修了後の研究活動に関するアンケート調査を実施した。その結果、19人(回答率76.0%)から回答が得られた。大学院博士後期課程への進学意向に関する質問において、「はい」と回答した者は4人(21%)、うち、「本大学院の後期(博士)を希望」と回答した者は1人(5%)であった(図2)。ただし、「わからない」と回答した者6人(32%)のうち、5人からは「本大学院への意見・要望等」を回答する自由記述欄において「ぜひ進学を検討させていただきたい」「何かしら、修了生として大学と関わりたい」「学びやすい大学院だと思う」など、本学博士後期課程への進学に対して前向きな回

答が得られている。

本大学院の魅力を周知し、進学意欲を促すことで安定的な定員確保は可能であると判断できる。

表 1. 修士課程修了生の本大学院博士後期課程への進学希望

大学院後期(博士)課程への進学の意向がある。

	人数	%
いいえ	9	47.4%
はい(本大学院の後期(博士)課程へ)	1	5.3%
はい(他大学院の後期(博士)課程へ)	3	15.8%
分からない	6	31.6%
合計	19	100%

資料5 【修士課程修了生対象】

大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査 依頼文書

資料6 【修士課程修了生対象】

大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査 アンケート

資料7 【修士課程修了生対象】

大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査 調査結果

(3) 本学修士課程在学生の博士後期課程への進学意向 (資料8、資料9)

2022年2月に本大学院修士課程在学生を対象に「看護学専攻 博士課程に関するアンケート」を実施した。調査の結果、6人(回答率60.0%)から回答が得られた。博士後期課程への進学について、「とても関心がある」1人(17%)、「やや関心がある」が2人(33%)であった。本学博士後期課程への進学意向については、「進学したい」0人(0%)、「機会があれば進学したい」2人(33%)、「今後、必要を感じた場合には進学を考える」2人(33%)であった。進学を希望する理由については、「修士課程での学びをさらに深められるから」が最も多く2人、次いで、「丁寧な教育・指導が期待できるから」1人であった。一方、進学を希望しない理由については、「その他」が2人と最も多く、次いで「学費が高いから」1人であった。「その他」の詳細は、「仕事との両立に不安がある」「学費だけでなく、交通費もかかるため」であった。

以上より、本学博士後期課程へ直ちに「進学したい」と回答した者はいなかったが、「機会があれば進学したい」「今後、必要を感じた場合には進学を考える」と将来的な入学意向を示した者は 4 人おり、今後内部からの進学も期待できる。また、「進学したくない」と回答した者は、学業と仕事の両立不安、学費・交通費の負担をその理由に挙げており、こうした課題に対しては、オンライン授業の拡充、奨学金制度の充実等によりある程度解消できると思われる。したがって、博士後期課程の入学定員 2 人の確保は可能であると考ええる。

さらに、本学看護学科の専任教員のみならず、非常勤の講師や助手、他の大学・短期大学、専門学校の専任教員からの進学も考えられることから、学生確保において十分な見通しがあると考えられる。

表 2. 修士課程在学生の本大学院博士後期課程への進学希望

博士課程に進学するとしたら、本学の博士課程に進学したいと思いますか。

	人数	%
進学したい	0	0.0%
機会があれば進学したい	2	33.3%
今後、必要を感じた場合には進学を考える	2	33.3%
進学したくない	1	16.7%
その他	1	16.7%
合計	6	100%

資料8 【修士課程在生対象】 博士課程に関するアンケート

資料9 【修士課程在生対象】 博士課程に関するアンケート調査結果

(4) 本学看護学科在学生の博士後期課程への進学意向 (**資料 10、資料 11**)

2022 年 2 月に、本学健康科学部看護学科に在籍する全学生 1～4 年生 314 人を対象に「博士課程に関するアンケート」調査を実施した。その結果、210 人(回答率 66.9%)から回答が得られた。既設の本大学院修士課程に「進学したい」者は 0 人(0%)であったが、「機会があれば進学したい」または「今後、必要に応じた場合には進学したい」者は 107 人(51.0%)であった。一方、博士後期課程への進学について、「とても関心がある」または「やや関心がある」と回答した者は 59 人(28.1%)、本大学院の博士後期課程に「進学したい」または「機会があれば進学したい」と回答した者は 38 人

(18.1%)であった(図4)。

このように、本学健康科学部看護学科に在籍している学生に限定した調査において、博士後期課程への高い関心がうかがえる。また、将来的に本大学院の博士後期課程へ進学したいと考える学生も多い。したがって、卒業生にも毎年送付する学報などを活用して、継続的に本大学院の特色や魅力を伝えるとともに、就業しながら学業を継続できるような環境を整えることで、安定的な学生の確保は十分可能であると判断される。

表 3. 看護学科在学生の本大学院博士後期課程への進学希望

博士課程に進学するとしたら、本学の博士課程に進学したいと思いますか。

	人数	%
進学したい	14	5.2
機会があれば進学したい	36	13.4
今後、必要を感じた場合には進学を考える	126	46.8
進学したくない	91	33.8
不明	2	0.7
合計	269	100

資料 10 【看護学科在学生対象】 博士課程に関するアンケート

資料 11 【看護学科在学生対象】 博士課程に関するアンケート調査結果

(5) 本学看護学科専任教員の博士後期課程への進学意向 (資料 12、資料 13)

2022年3月に、本学健康科学部看護学科に所属する専任教員17人を対象に「博士課程に関するアンケート」調査を実施した。この調査では、本学大学院の教員、本学大学院修士課程に在籍している、または修了した教員は対象から除外している。その結果、6人(回答率35.2%)から回答が得られた。博士後期課程への進学に関心があるかという問いについては、6人全員が「やや関心がある」(100%)と回答していた。また、本大学院の博士後期課程への進学意向については、「進学したい」が0人であったが、「機会があれば進学したい」1人(16.7%)、「今後、必要を感じた場合には進学を考える」が4人(66.6%)であった。進学を希望する理由としては、「博士号を取得し、キャリアアップを図りたいから」が最も多く3人、次いで、「修士課程での学びをさらに深められるから」2人、「丁寧な教育・指導が期待できるから」「学費が適正だから」がそれ

ぞれ1人であった。

以上より、本学看護学科専任教員の博士後期課程進学に対する関心の高さがうかがえる。また、6人中5人は、今後、本学大学院博士後期課程を進学先の候補として考えていることが分かる。本学看護学科の専任教員のみならず、非常勤講師や非常勤講師、他の大学・専門学校等の専任教員からの進学も考えられることから、学生確保において十分な見通しがあると考えられる。

表4 看護学科専任教員*の本大学院博士後期課程への進学希望

*大学院教員、本大学院修士課程に在籍または修了した者は除く

博士課程に進学するとしたら、本学の博士課程に進学したいと思いますか。

	人数	%
進学したい	0	0
機会があれば進学したい	1	16.7
今後、必要を感じた場合には進学を考える	4	66.6
進学したくない	1	16.7
合計	6	100

資料11 【看護学科在学生対象】 博士課程に関するアンケート調査結果

資料12 【看護学科教員対象】 博士課程に関するアンケート

2. 学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 学生確保の取組

本大学院の概要をまとめたパンフレットや学生募集要項を作成し、看護学科4年生や修士課程在学生等へ配布する。また、毎年実施している実習指導者連絡会議において、臨地実習を依頼している各実習施設担当者等に本大学院のパンフレットや学生募集要項の配布・説明を行う。

さらに、毎年実施しているオープンキャンパス(年3回)において、入学希望者等に対して本大学院のパンフレットや学生募集要項を配布し、博士後期課程の特色を伝える。また、大学院受験相談窓口を設置し、入学希望者等に対しては、大学院担当教員が質問等に対応する。

以上に加えて、各教員の研究テーマや研究業績、社会活動の実績等を本学ホームページや研究者情報データベース researchmap (<https://researchmap.jp>) 等により情報を広く公開し、本大学院の特色や魅力を積極的に発信することで、入学定員の充

足を図る。

2) 学生納付金の設定の考え方

看護現場で働く社会人等に広く教育機会を提供していくことを主眼とし、また、本学は公立大学であることから、県内の国公立大学大学院や既設の本大学院修士課程との均衡も勘案し、博士後期課程の授業料等については、下記のとおりとする。

表 5 新見公立大学大学院健康科学研究科博士後期課程の学生納付金

入学金 ^{注1)}	授業料(年額)	後援会費 ^{注1)} (初年度のみ)
282,000 円	535,800 円	30,000 円 (入会金 10,000 円、 会費 20,000 円)

注 1) 本学大学院修士課程を修了した者(見込みを含む)は、入学金、後援会費入会金を納付する必要はない。

(参考)

国立大学法人岡山大学大学院 博士後期課程

入学金(大学院法務研究科を除く) 282,000 円

授業料(年額)(大学院法務研究科を除く) 535,800 円

公立大学法人岡山県立大学大学院 博士後期課程

入学金 岡山県内の者 188,000 円 左記以外の者 282,000 円

授業料(年額) 535,800 円 後援会費 56,000 円

全国の公立の看護系大学大学院 博士後期課程 (29 校)

入学金(平均) 363,689 円 授業料(平均) 538,565 円

その他(平均) 15,332 円

【参考】

- ・岡山大学の HP「入学料」

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/prospective/nyugakukin.html>

- ・岡山県立大学の HP「授業料等・奨学金・授業料減免」

https://www.oka-pu.ac.jp/career/career_detail/index/638.html

- ・一般社団法人 日本看護系大学協議会 2019 年度(2020 年度実施)

『看護系大学に関する実態調査』 p277.

Ⅱ. 人材需要の動向等社会の要請

1. 人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

近年、多様化・複雑化・複合化している人々の健康課題に対し、多職種で協働しながら連続的・継続的にアプローチする重層的支援体制が必要となっている。特に、地域の特性に応じた身体的・精神的に安定できる居場所づくりと共に、病院から在宅への移行支援の推進を含めた地域包括ケアシステムの構築が求められており、日常生活圏域において、誰もが安心して自分らしく生活することができるよう、全世代型地域包括ケア看護学を探究できる人材を養成することが看護系大学に求められている。

典型的中山間地域に位置する本学では、学部看護基礎教育から地域医療に特化した科目を配置し、切れ目のない病院医療と在宅医療での継続看護の役割について学修している。また、「保健師教育」選択制に加えて、2019年には、新たに「養護教諭養成課程」「訪問看護・地域看護コース」を設置し、子どもから高齢者まで全世代を対象とした地域包括ケア看護学の教育基盤の構築を進めている。今後は本課程での研究成果を活かして教育基盤の深化を目指していく必要がある。

現在、修士課程の2年間で種々の研究課題に取り組んでいるが、研究科に博士後期課程を設置し、前期・後期課程を通して、中山間地域における健康課題に取り組み、その解決策を自治体に向けて提言し得るレベルの研究として実施していくことが、本学の使命であると考えている。

そこで、新見公立大学大学院健康科学研究科看護学専攻(博士後期課程)では、中山間地域に暮らすすべての世代の「こころ」と「身体」の健康を支えるために、以下の能力を有し、全世代型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い看護研究者を育成することを目標とする。

- ①研究者としての高い倫理観と使命感を持ち、課題解決に向け主体的に取り組む姿勢を身につける。
- ②全世代のこころと身体の健康を支援する地域包括ケアを構想し、課題を追究、解決する能力を身につける。
- ③地域医療・看護の質の向上と発展に寄与する研究を自ら構想・遂行する研究力を身につける。

全世代型地域包括ケア看護学の理念は、中山間地域の子どもから高齢者までのす

すべての世代、あらゆる健康レベルにある人々を対象とし、保健・医療・福祉の課題を包括的に捉えて、看護の視点から「こころ」と「身体」の健康を支え、住み慣れた地域で誰もが安心して、その人らしく暮らすことができる全世代型地域包括ケアの実践に向けた創造的な看護を探究することである。

2. 1 が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 社会的、地域的な人材需要の動向

近年の相次ぐ看護系大学の新設と既設看護系大学の量的拡大等により、全国の看護系大学では、教員の確保が喫緊の課題となっている。日本看護系大学協議会が2020年度に会員校に実施した調査によれば、看護系大学の大学院博士後期課程修了生285人の修了後の進路は、大学・短期大学・研究機関等が166人(58.2%)、次いで、病院・診療所が43人(15.1%)、学校が23人(8.1%)となっており、修了生の半数以上が大学・短期大学・研究機関等に就職している(資料2)。しかし、同協議会が2021年に実施した「教員数に関する調査」によると、過去6年間に、当該年度の4月1日時点で教員定数を充足できないことがあったと回答した看護系大学は、国立大学84.0%、公立大学88.9%、私立大学77.4%となっており、いまだ看護系大学の教員数は不足している状況にある(資料3)。

- 資料2** 一般社団法人日本看護系大学協議会 データベース委員会
『2019年度(2020年度実施)看護系大学に関する実態調査』 p130
- 資料3** 一般社団法人日本看護系大学協議会 大学運営・経営委員会
『教員数に関する調査結果』

また、看護系大学においては教員の確保に加えて、看護教員の質の向上も課題となっている。地域における子育て世代、高齢者、精神疾患を有する人等が生活する場に適した、切れ目のないケアを実施できる包括的なケアの推進に向けて、より一層幅広く、かつ深い知識とスキル等の能力を有する、優れた看護系人材の養成を使命とする看護系大学への期待はますます大きくなっている。この人材養成にかかわる看護系教員は、看護学に関する高度かつ専門的な知識と技術を有する看護系大学院博士後期課程修了者であることが望ましい。しかし、2020(令和2)年時点の看護系教員の最終取得学位は、修士が5,038人(55.9%)であるのに対して、博士は3,191人

(35.4%)にとどまっている(資料2)。

資料2 一般社団法人日本看護系大学協議会 データベース委員会
『2019 年度(2020 年度実施)看護系大学に関する実態調査』 p120

一方、地域の保健医療の現状に目を向けると、本学が位置する新見市を含む高梁・新見保健医療圏の保健医療従事者は不足している状況にある。2016年12月31日時点の当圏域の人口10万対看護師数は県の看護師(1087.6)の85.4%であり、地域別にみると、高梁市は92.3%、新見市では78.1%となっており、特に新見市の看護師不足は深刻な状況である(資料14)。また、当圏域においては、医師不足も深刻であり、一般的な診療科目については確保されているものの、高度急性期病床や専門医の確保は困難な状況にある。そのため、他圏域の専門医療機能を有する医療機関との連携体制を強化するとともに、他圏域で高度急性期医療を終えた患者が他圏域から住み慣れた当圏域へ円滑に帰ることができるように、関係機関等と連携しながら受け入れ体制の整備を図ることが求められている(資料14)。さらに、高齢化が進む当圏域では、医療・介護サービスの需要が増大し、限られた医療資源をより有効に活用し、患者それぞれの状態にふさわしい良質で適切な医療を効果的かつ効率的に提供する医療提供体制の構築と、在宅医療や介護サービスの充実等による地域包括ケアシステムの構築を一体的に推進することが求められている(資料14)。

本大学院博士後期課程では、すべての世代の「こころ」と「身体」の健康を支えるために、看護の視点から全世代型・全対象型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献できる人材の育成を目的としており、看護職を取り巻く社会的、地域的な動向や要請を踏まえたものとなっている。

資料14 第8次岡山県保健医療計画 高梁・新見保健医療圏

2) 新見市、新見市議会及び関連機関からの要望書

本学の大学院健康科学研究科博士後期課程設置に関して、本学が位置する新見市および新見市議会、一般社団法人新見市医師会、新見市商工会議所、さらには公益社団法人岡山県看護協会から要望書が提出されている(資料15)。要望書では、開学以来41年間の看護基礎教育の基盤に加えて、地域特性を活かした特色あるカリキ

ュラムである、全国初の訪問看護・地域看護コースの設置、7年間の修士課程での教育が高く評価されている。今後、博士後期課程において、地域医療が抱える健康課題を追究することで、さらなる看護学の深化につながることを期待され、職能団体としても看護界の発展のために本学における看護研究者の育成が必要であるとしている。

以上より、本学大学院健康科学研究科博士後期課程に対する期待は高く、博士後期課程が養成する人材に対する需要も十分高いと考える。

資料 15 新見市、新見市議会及び関連機関からの要望書

【資料目次】

- 資料1 一般社団法人日本看護系大学協議会 2021 年度会員校
(大学院一覧)
- 資料2 一般社団法人日本看護系大学協議会 データベース委員会
『2019 年度(2020 年度実施)看護系大学に関する実態調査』
- 資料3 一般社団法人日本看護系大学協議会 大学運営・経営委員会
『教員数に関する調査結果』
- 資料4 文部科学省 2019 年度 看護系大学に係る基礎データ
- 資料5 【修士課程修了生対象】
大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査 依頼文書
- 資料6 【修士課程修了生対象】
大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査 アンケート
- 資料7 【修士課程修了生対象】
大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査 調査結果
- 資料8 【修士課程在学学生対象】 博士課程に関するアンケート
- 資料9 【修士課程在学学生対象】 博士課程に関するアンケート 調査結果
- 資料10 【看護学科在学学生対象】 博士課程に関するアンケート
- 資料11 【看護学科在学学生対象】 博士課程に関するアンケート 調査結果
- 資料12 【看護学科教員対象】 博士課程に関するアンケート
- 資料13 【看護学科教員対象】 博士課程に関するアンケート 調査結果
- 資料14 第8次岡山県保健医療計画 高梁・新見保健医療圏
- 資料15 新見市、新見市議会及び関連機関からの要望書

- 1 学生確保の見通し等を記載した書類 資料2
一般社団法人日本看護系大学協議会 データベース委員会『2019 年度(2020 年度実施)看護系大学に関する実態調査』
- 2 出典
『2019 年度(2020 年度実施)看護系大学に関する実態調査』 p111～113、120、127、128、130
- 3 アドレス
<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/05/2020DB.pdf>
- 4 看護系大学の大学院博士課程修了生の大学・短期大学・研究機関等への就職率等の数値を加工せず引用した。

1 学生確保の見通し等を記載した書類 資料3

一般社団法人日本看護系大学協議会 大学運営・経営委員会『教員数に関する調査結果』

2 出典

一般社団法人日本看護系大学協議会 データベース委員会、一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学運営・経営委員会『看護系大学(国公私立)教員数に関する調査結果』

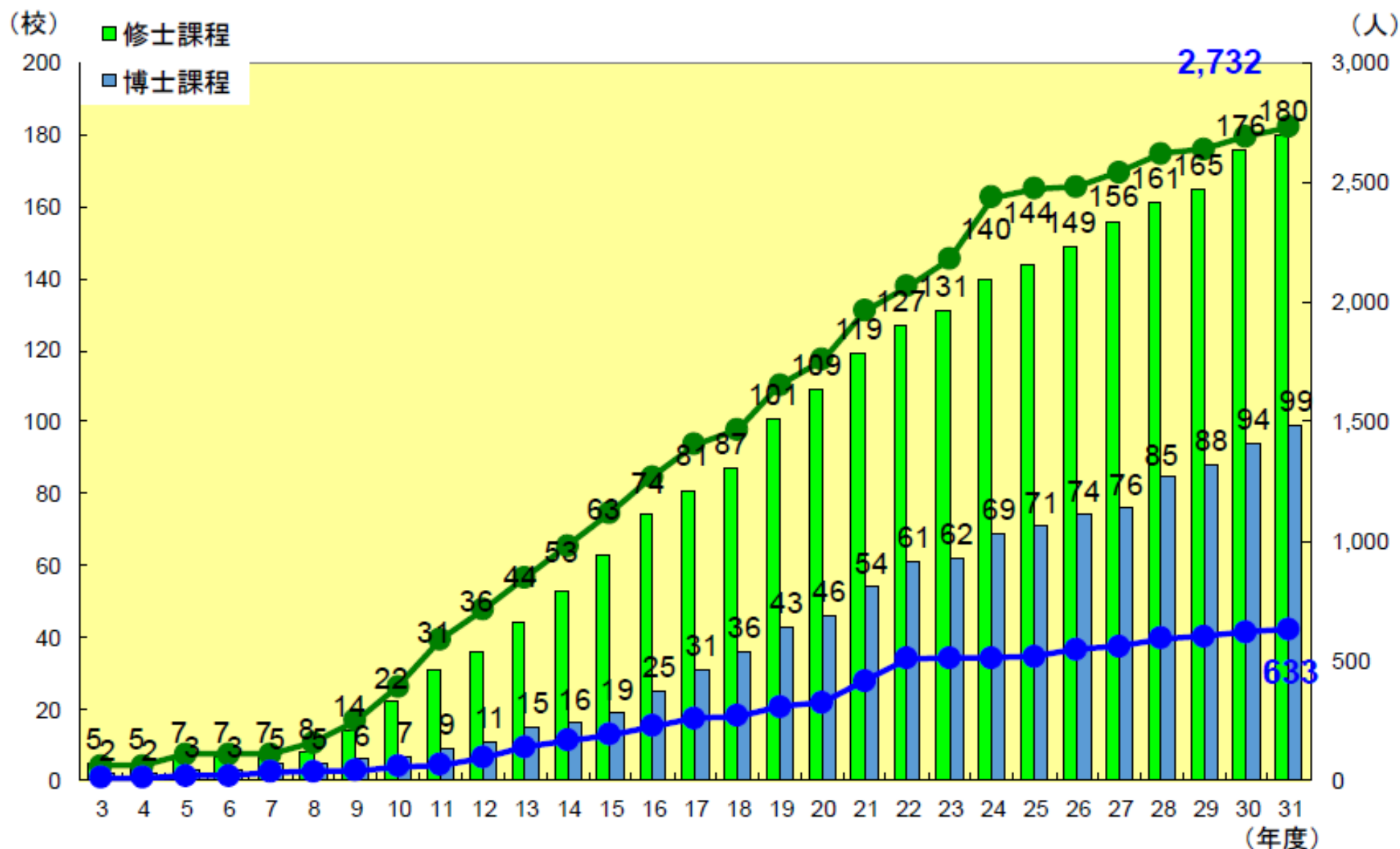
3 アドレス

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2021/12/DBreport2.pdf>

4 一般社団法人日本看護系大学協議会 データベース委員会、一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学運営・経営委員会発表データを引用した。

2019年度 看護系大学に係る基礎データ

看護系大学院数及び入学定員の推移 (2019年)



(注) 平成16年度以後の修士課程には、専門職大学院1大学院(入学定員40名)を含む。

2021年3月23日

新見公立大学大学院 修了者 各位

新見公立大学大学院
看護学研究科長

大学院での学びと修了後の研究活動に関する

アンケート調査ご協力のお願い

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

皆様方におかれましては、本学大学院修了後、日々ご活躍のことと存じます。

このたび、本学大学院開設より6年を経過したことにより、今後の大学院教育の質改善に役立てることを目的として、第1期～第5期までの全修了者を対象に修了後の学修成果に対する評価を行うために調査を実施することとなりました。皆様方のご意見を参考にさせていただきたく存じます。日々、お忙しいところ大変恐縮ではございますが、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

- ・調査方法:無記名オンラインアンケート(QRコードの読み取り)で回答は5分程度です。

QRコードはスマホ等で直接読み取ることで、回答画面につながります。回答後は

で次の質問に進み、質問9が最後になります。をクリックして終了です。

- ・倫理的配慮:自由意思での回答を求め、個人が特定されないようデータの取扱いに留意いたします。
- ・回答期限:オンラインでの回答は、2021年4月30日(金)12時までにお願いします。

ご多用中、大変恐れ入りますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具

※当調査に関するご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。

(QRコード以外に、下記[連絡先▲▲▲@niimi-u.ac.jp](mailto:▲▲▲@niimi-u.ac.jp)宛、メールをいただくことで、リンク(<https://forms.office.com>)をお送りすることも出来ます。)



QRコードはスマホで直接読み取っ

てください。

【連絡先】

公立大学法人 新見公立大学 大学院
看護学研究科看護学専攻
研究科長 教授 矢庭さゆり
〒718-8585 岡山県 新見市 西方 1263-2
TEL: (0867) 72-0634
▲▲▲@niimi-u.ac.jp

大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査

新見公立大学大学院看護学研究科

1. 本大学院の修了年度を教えてください

- 2015年度
- 2016年度
- 2017年度
- 2018年度
- 2019年度

2. 課程修了時のディプロマポリシーの達成度を教えてください。

	そう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	まあそう思う	そう思う
(私は)研究者としての基礎的能力を身につけることができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(私は)看護専門職としての高い倫理観を身につけることができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(私は)看護学発展のための広い視野と行動力を身につけることができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(私は)地域医療を支える質の高い看護を実践している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(私は)地域医療を支える質の高い看護教育(指導)を実践している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

本大学院修了後の活動についてお答えください。

3. 大学院で学んだことが現在の業務に活かされている。

- そう思わない
- あまりそう思わない
- どちらともいえない
- まあそう思う
- そう思う

4. 積極的に研究を継続している。

- していない
- している

5. 学術雑誌に目を通してしている。

- していない
- している

6. 研究成果を発表している(複数回答可)。

- 発表していない
- 学会誌等に論文発表している
- 学会等で示説・口頭発表している

その他

7. 看護学領域の研究職あるいは教育職に就いている。

- 就いていない
- 就いていないが、過去に就いていた
- 就いている

8. 大学院後期(博士)課程への進学意向がある。

- いいえ
- はい(本大学院の後期(博士)課程へ)
- はい(他大学院の後期(博士)課程へ)
- 分からない

その他

9. 本大学院に関して、ご意見・要望等があれば自由にお聞かせください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

【修士課程修了生】

大学院での学びと修了後の研究活動に関する調査 結果

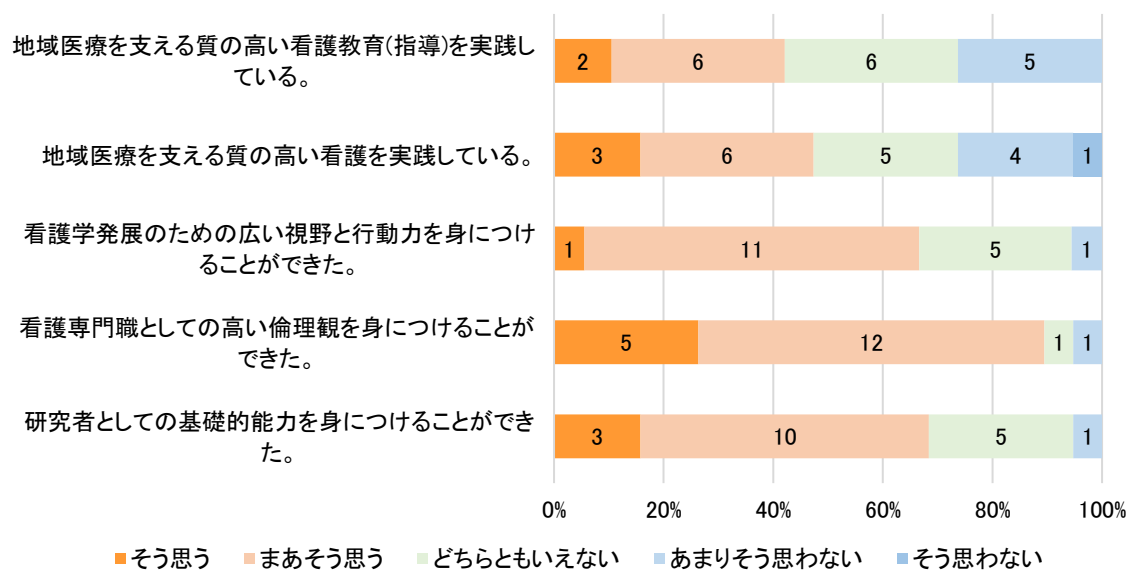
調査概要

調査目的	大学院看護学研究科修士課程修了生の大学院の学びと修了後の研究活動の継続状況、博士後期課程への進学意向等について明らかにする。
調査方法	Microsoft Forms によるオンラインアンケート調査 アンケートフォームの QR コードを記載した調査依頼文書を対象者宅へ郵送し、アンケートフォームへの回答入力を依頼した。
調査対象	新見公立大学看護学研究科修士課程修了生 25 人
調査期間	2021 年 3 月 1 日～6 月 30 日
回答者数	19 人(回答率 76.0%)
調査実施主体	新見公立大学大学院改組部会

1. 本大学院の修了年度を教えてください。

修了年度	人数	%
2015 年度	3	15.8%
2016 年度	5	26.3%
2017 年度	2	10.5%
2018 年度	3	15.8%
2019 年度	6	31.6%

2. 課程修了時のディプロマポリシーの達成度を教えてください。



3. 大学院で学んだことが現在の業務に活かされている。

	人数	%
そう思わない	0	0.0%
あまりそう思わない	4	21.1%
どちらともいえない	1	5.3%
まあそう思う	6	31.6%
そう思う	8	42.1%

4. 積極的に研究を継続している。

	人数	%
していない	10	52.6%
している	9	47.4%

5. 学術雑誌に目を通している

	人数	%
していない	6	31.6%
している	13	68.4%

6. 研究成果を発表している(複数回答可)。

	人数	%
発表していない	5	26.3%
学会誌等に論文発表している	5	26.3%
学会等で示説・口頭発表している	11	57.9%
その他	2	10.5%

7. 看護学領域の研究職あるいは教育職に就いている。

	人数	%
就いていない	12	63.2%
就いていないが、過去に就いていた	0	0.0%
就いている	7	36.8%

8. 大学院後期(博士)課程への進学意向がある。

	人数	%
いいえ	9	47.4%
はい(本大学院の後期(博士)課程へ)	1	5.3%
はい(他大学院の後期(博士)課程へ)	3	15.8%
分からない	6	31.6%

9. 本大学院に関して、ご意見・要望等があれば自由にお聞かせください。

- ・最初は複数の先生へ発表するゼミがありましたが、いつのまにかなくなりました。外部評価のために立ち上げたように感じました。
- ・1年次の講義については、院生の要望に合わせた時間帯に実施していただき感謝している。柔軟な対応がとてもありがたかった。内容についても、それぞれの領域の特性や強みを学ぶことができ充実していた。研究に繋がる講義が少ないように思え、自身の研究に活かせるものがもう少し欲しかったと思った。研究については、指導教員とのやりとりが難しい場面が多かったように思う。院生側も教員側も忙しい中での取り組みのため、仕方ないで片付いてしまい、妥協する面もあった。しかし、主・副指導教員が研究の進行をすり合わせて下さっており、方向性が定めれば取り組みやすかった。最後の発表や提出に向けて、指導教員以外からの指導がありがたく、とても貴重であると感じた。最後まで研究の完成を助け見守り続けて下さった関係者の皆様に感謝したい。
- ・都会ではない、新見の魅力(先生?町?大学)特徴を出して頂きたいと思います。みんなが遠方でもいきたくなる大学になって頂きたいと思います。お世話になりました🙏
- ・何かしら、修了生として大学と関わりたいと思います。同じ修了生とは交流がありますが、大学とはないので寂しく思います。また、修了後に図書館が18時以降に使用できなかったのは、残念でした。働きながらの研究は、難しく感じました。
- ・臨床では感じることでできない多くのことを学びました。
- ・社会人としての大学院生生活は、ともに働いている仲間が居て、多岐に渡り支えになりました。情報交換もでき、有意義な時間でした。他の大学院は、学部から来ている若い世代の学生との交流もあると聞きました。それはそれで視野が広がる可能性は大きいので、いいのではないかと、思いました。
- ・修了後も研究をしていこうと思っています。ありがとうございました。
- ・教員の方々も分かりやすく丁寧に指導して頂けるので、学びやすい大学院だと思います。
- ・住民、医療従事者と密につながり、人口減少著しいこの地域に設立された大学の役目を今後とも存分に果たしていただきたい。
- ・学んだ3年間は充実していました。また学べる機会があれば後期課程に進学したい。週末の集中講義は大変ありがたい配慮でした。貴学に博士課程が設置されるときには、ぜひ進学を検討させていただきたいです。

新見公立大学大学院 健康科学研究科

看護学専攻 博士課程に関するアンケート

【修士課程在学学生】

下記の「看護学専攻 博士後期課程（設置構想中）の概要」をご参照のうえ、以下のアンケートにご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、アンケートは無記名で行い、回答により個人が特定されることは決してありません。忌憚のないご意見をぜひお寄せください。

また、アンケートで得られた情報や回答は、上記の目的のための統計資料としてのみ利用し、目的以外に利用することはありません。

「看護学専攻 博士後期課程（設置構想中）の概要」

設置の必要性

超少子高齢化と人口減少の進む中山間地域の保健・医療・福祉の現状と将来予測を踏まえ、全ての世代の「こころ」と「身体」の健康を支えるために、看護の視点から全世代型・全対象型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い研究者の育成は重要であり、地域社会からの期待も大きいと判断される。

近年、多様化・複雑化・複合化している人々の健康課題に対し、多職種で協働しながら連続的・継続的にアプローチする重層的支援体制が必要となっている。特に、近年は地域の特性に応じた身体的・精神的に安定できる居場所づくりと共に、病院から在宅への移行支援の推進を含めた地域包括ケアシステムの構築が求められており、注)。日常生活圏域において、誰もが安心して自分らしく生活することができるよう、全世代型地域包括ケア看護学の探究ができる人材を養成することが求められている。

典型的中山間地域に位置する本学では、学部看護基礎教育から地域医療に特化した科目を配置し、切れ目のない病院医療と在宅医療での継続看護の役割について学修している。また、「保健師教育」選択制に加えて、2019年には、新たに「養護教諭」「訪問看護・地域看護コース」を設置し、子どもから高齢者まで全世代を対象とした地域包括ケア看護学の教育基盤の構築を進めている。向後は本課程での研究成果を活かして教育基盤の深化を目指していく必要がある。

現在、修士課程の2年間で種々の研究課題に取り組んでいるが、実態把握と課題抽出に留まっている。研究科に博士後期課程を設置し、前期・後期課程を通して、中山間地域における健康課題に取り組み、その解決策を自治体に向けて提言し得るレベルの研究として実施していくことが、本学の使命であると考えている。

以上の要素を勘案して、研究科に博士後期課程を設置して、研究成果を広く社会に発信し、地域

の保健・医療・福祉、ならびに看護の質的向上に寄与するとともに、地域社会の発展に貢献する看護研究者の育成を目指すこととした。

看護学専攻(博士後期課程)の特色

教育研究上の理念・目標を達成するために、本学の特色として以下の3科目を配置する。

(1)基盤科目: 中山間地域における保健・医療・福祉の現状を踏まえ、全世代型地域包括ケア看護学を探究する。

・保健・医療・福祉システムにおける看護政策の動向を踏まえ、看護の現状と課題・あり方について探究する力を養う科目:「看護学研究方法特講」「応用看護統計学」

・全世代型地域包括ケア看護学を構想し、その深化・推進に貢献する質の高い看護専門職を育成する科目:「地域包括ケア看護学特講」「精神保健ケア特講」

(2)専門科目: 地域の全世代の心身の健康課題解決に向けて地域包括ケアを構想し、多職種と協働するマネジメント力とともに、自治体に向けて提言する力を養う。

・中山間地域で生活する人々の看護の課題、こころと身体健康と生活課題への支援、保健・医療・福祉の連携を含めた地域の現状や将来予測を踏まえ、看護の課題を探究し、分析する力を養う科目:「地域支援システム看護学特講」

・医療機関から在宅や地域などへの療養の場の意向やそれを支える専門職の役割と機能、職種間の連携などを探究する科目:「継続療養支援開発看護学特講」

(3)研究科目: 基盤科目、専門科目をもとに「看護学特別研究I・II・III」を通して、地域医療に貢献するための思考力と確かな研究力を養い、自立的に研究を遂行し看護学を探究する能力を高める。

・研究力を深化させ、看護に関する広い視野を身につけ看護学の発展に貢献する力を養う科目:「看護学特別研究I・II・III」

5.教育研究目的

中山間地域の保健医療の課題に対して、対応できる力を育成するとともに、思考力と確かな研究力により、地域医療・看護領域における新たな理論を探究する。具体的には、中山間地域の子どもから高齢者までの世代間の特性を把握し、こころの安寧に配慮した健康の維持・増進、疾病の重症化予防、ならびに介護予防の視点を重視した保健医療福祉のシステムの構築を目指す。さらに、病院医療から在宅医療への移行に伴う継続看護の役割・意義について探求し、切れ目ない療養支援のモデルの開発を目指す、全世代型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い看護研究者を育成する。

6.育成する人材像

中山間地域に暮らすすべての世代の「こころ」と「身体」の健康を支えるために、全世代型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い看護研究者を育成し、教育研究機関、行政機関、医療機関等で活躍する人材を輩出する。

<ディプロマ・ポリシー>

健康科学研究科の定める期間在学し、研究科の教育目標及び看護学専攻の教育目的に沿って設定された授業科目を履修し、基準となる単位数以上を修得し、かつ研究指導に基づいて執筆・提出した博士論文の審査及び最終試験に合格すること。そのうえに、以下の要件を満たした者として、博士(看護学)の学位を授与する。

①研究者としての高い倫理観と使命感を持ち、課題解決に向け主体的に取り組む姿勢を有している

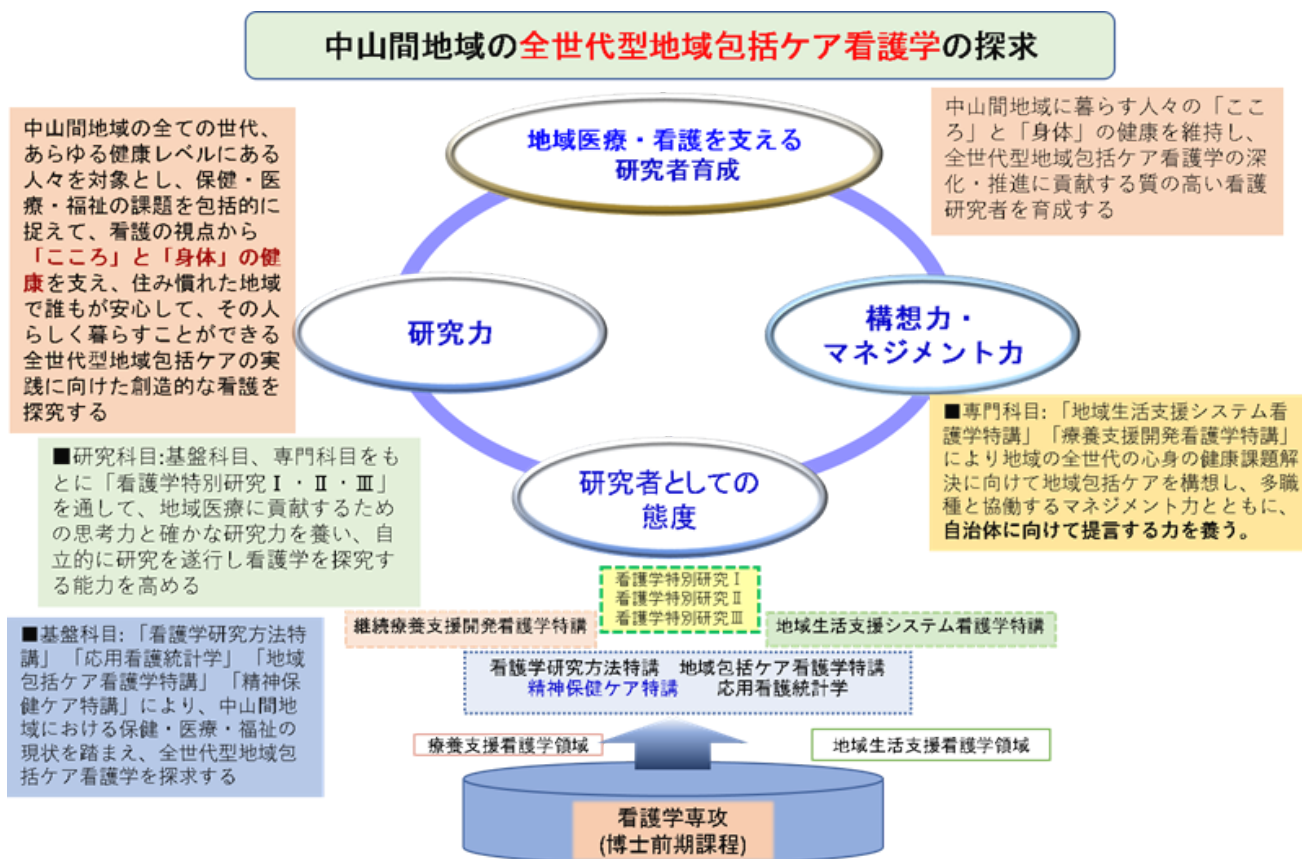
【研究者としての態度】

②全世代のこころと身体を健康を支援する地域包括ケアを構想し、多職種と協働するマネジメント力を有している

【構想力、マネジメント力】

③地域医療・看護の質の向上と発展に寄与する研究を自ら構想・遂行する能力を有している

【研究力】



本学の博士課程について

1

あなたは博士課程への進学に関心がありますか。

- とても関心がある
- やや関心はある
- あまり関心がない
- まったく関心がない

2

博士課程に進学するとしたら、本学の博士課程に進学したいと思いますか。

- 進学したい
- 機会があれば進学したい
- 今後、必要を感じた場合には進学を考える
- 進学したくない

その他

3

進学を希望する理由を教えてください（複数回答可）。

- 教育内容に魅力を感じたから
- 高度な専門知識と研究力を身に付けたいから
- 博士号を取得し、キャリアアップを図りたいから
- 丁寧な教育・指導が期待できるから
- 修士課程での学びをさらに深められるから
- 学費が適正だから

その他

4

進学を希望しない理由を教えてください（複数回答可）。

- 博士号を取得する必要性を感じないから
- 教育内容に魅力を感じないから
- 他の大学院への進学を検討しているから
- 新設の大学院に進学するのは不安だから
- 研究したいテーマが見つからないから
- 社会に出て仕事がしたいから
- 学費が高いから
- 家庭の事情（子育て等）

その他

5

本学の修士課程・博士課程に進学するとしたら、どのような条件や支援を希望しますか（複数回答可）。

- 入学金の免除・減免
- 授業料の免除・減免
- 奨学金の給付・貸与
- 夜間開講の授業
- 土曜日開講の授業
- インターネットを利用したオンライン授業
- サテライト・キャンパスでの授業（倉敷市内）
- 長期履修学生制度（標準修業年限の延長）

その他

6

本学の博士課程設置についてご要望・ご意見などございましたらお聞かせください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

【修士課程在籍生】

新見公立大学大学院 看護学研究科※ 看護学専攻 博士課程に関するアンケート 結果

※2022年4月「健康科学研究科」へ名称変更予定

調査概要

調査目的	新見公立大学大学院看護学研究科修士課程に在籍する学生の本学大学院看護学研究科博士後期課程への進学意向や進学理由、本大学院に求める条件や支援などを明らかにする。
調査方法	Microsoft Forms によるオンラインアンケート調査 本学のポータルサイト(UNIVERSAL PASSPORT)の掲示板を利用して、対象者へアンケートの回答を依頼した。
調査対象	新見公立大学看護学研究科修士課程在籍生 10 人
調査期間	2022年1月18日～1月31日
回答者数	6人(回答率 60.0%)
調査実施主体	新見公立大学大学院改組部会

1. あなたは博士課程への進学に関心がありますか。

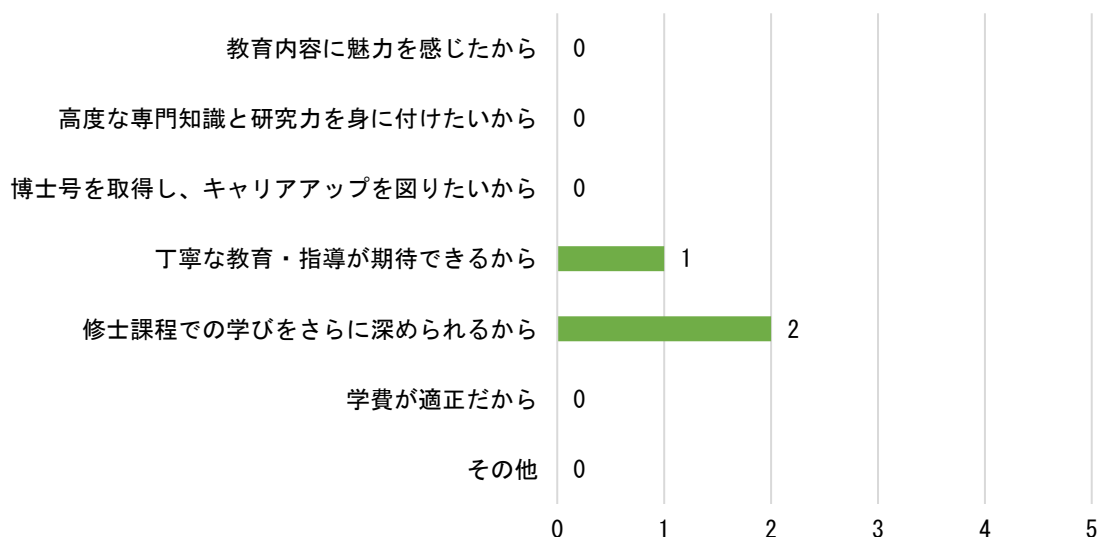
	人数	%
とても関心がある	1	16.7%
やや関心はある	2	33.3%
あまり関心がない	2	33.3%
まったく関心がない	1	16.7%

2. 博士課程に進学するとしたら、本学の博士課程に進学したいと思いますか。

	人数	%
進学したい	0	0.0%
機会があれば進学したい	2	33.3%
今後、必要を感じた場合には進学を考える	2	33.3%
進学したくない	1	16.7%
その他	1	16.7%

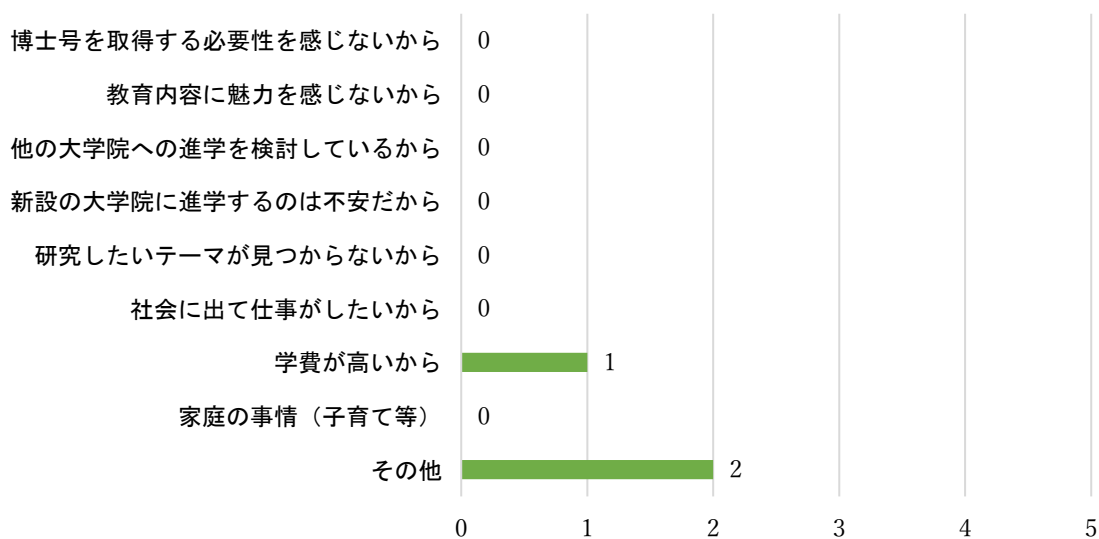
3. 進学を希望する理由を教えてください(複数回答可)。

単位(人)



4. 進学を希望しない理由を教えてください(複数回答可)。

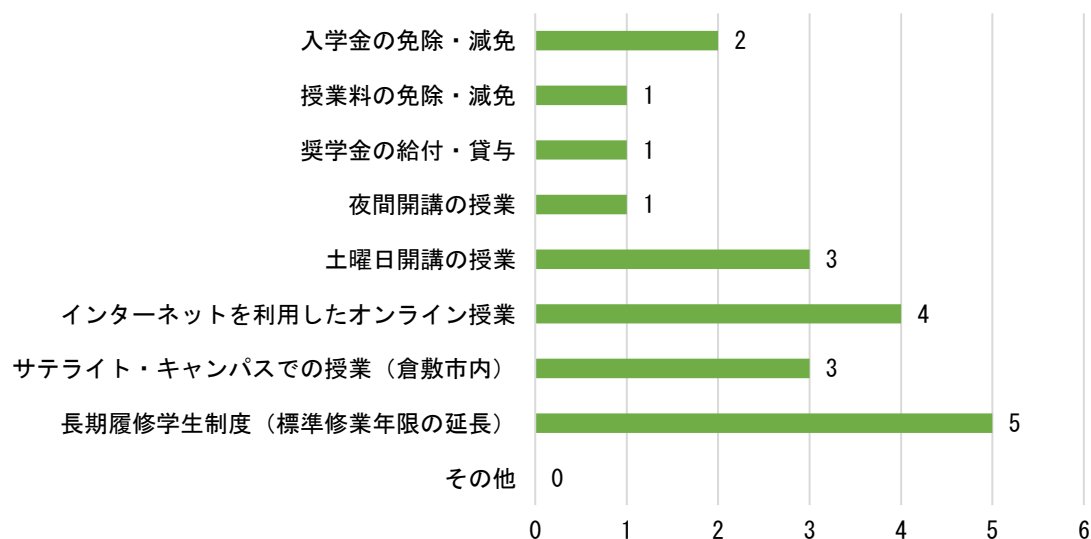
単位(人)



※その他:“仕事との両立に不安がある”“学費だけでなく、交通費もかかるため”

5. 本学の博士課程に進学するとしたら、どのような条件や支援を希望しますか
(複数回答可)。

単位(人)



6. 本学の博士課程設置についてご要望・ご意見などございましたらお聞かせください。

- ・域社会の発展に力を注ぐ若い力を育てることは大切だと思います。
- ・ありません
- ・すでに超少子高齢化にある新見公立大学の地域性を活かした博士課程設置は、これから日本全体に起こる超少子高齢化社会にとり先進的で興味深いと感じました。

【看護学科在学生】

新見公立大学大学院 健康科学研究科※ 看護学専攻 博士課程に関するアンケート

下記の「看護学専攻 博士後期課程（設置構想中）の概要」をご参照のうえ、以下のアンケートにご協力いただきますようお願いいたします。なお、アンケートは無記名で行い、回答により個人が特定されることは決してありません。忌憚のないご意見をぜひお寄せください。また、アンケートで得られた情報や回答は、上記の目的のための統計資料としてのみ利用し、目的以外に利用することはありません。

※名称変更予定

「看護学専攻 博士後期課程（設置構想中）の概要」

設置の必要性

超少子高齢化と人口減少の進む中山間地域の保健・医療・福祉の現状と将来予測を踏まえ、全ての世代の「こころ」と「身体」の健康を支えるために、看護の視点から全世代型・全対象型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い研究者の育成は重要であり、地域社会からの期待も大きいと判断される。

近年、多様化・複雑化・複合化している人々の健康課題に対し、多職種で協働しながら連続的・継続的にアプローチする重層的支援体制が必要となっている。特に、近年は地域の特性に応じた身体的・精神的に安定できる居場所づくりと共に、病院から在宅への移行支援の推進を含めた地域包括ケアシステムの構築が求められており、注)。日常生活圏域において、誰もが安心して自分らしく生活することができるよう、全世代型地域包括ケア看護学の探究ができる人材を養成することが求められている。

典型的中山間地域に位置する本学では、学部看護基礎教育から地域医療に特化した科目を配置し、切れ目のない病院医療と在宅医療での継続看護の役割について学修している。また、「保健師教育」選択制に加えて、2019年には、新たに「養護教諭」「訪問看護・地域看護コース」を設置し、子どもから高齢者まで全世代を対象とした地域包括ケア看護学の教育基盤の構築を進めている。向後は本課程での研究成果を活かして教育基盤の深化を目指していく必要がある。

現在、修士課程の2年間で種々の研究課題に取り組んでいるが、実態把握と課題抽出に留まっている。研究科に博士後期課程を設置し、前期・後期課程を通して、中山間地域における健康課題に取り組み、その解決策を自治体に向けて提言し得るレベルの研究として実施していくことが、本学の使命であると考えている。

以上の要素を勘案して、研究科に博士後期課程を設置して、研究成果を広く社会に発信し、地域の保健・医療・福祉、ならびに看護の質的向上に寄与するとともに、地域社会の発展に貢献する看護研究者の育成を目指すこととした。

看護学専攻(博士後期課程)の特色

教育研究上の理念・目標を達成するために、本学の特色として以下の3科目を配置する。

(1)基盤科目: 中山間地域における保健・医療・福祉の現状を踏まえ、全世代型地域包括ケア看護学を探究する。

・保健・医療・福祉システムにおける看護政策の動向を踏まえ、看護の現状と課題・あり方について探究する力を養う科目:「看護学研究方法特講」「応用看護統計学」

・全世代型地域包括ケア看護学を構想し、その深化・推進に貢献する質の高い看護専門職を育成する科目:「地域包括ケア看護学特講」「精神保健ケア特講」

(2)専門科目: 地域の全世代の心身の健康課題解決に向けて地域包括ケアを構想し、多職種と協働するマネジメント力とともに、自治体に向けて提言する力を養う。

・中山間地域で生活する人々の看護の課題、こころと身体健康と生活課題への支援、保健・医療・福祉の連携を含めた地域の現状や将来予測を踏まえ、看護の課題を探究し、分析する力を養う科目:「地域支援システム看護学特講」

・医療機関から在宅や地域などへの療養の場の意向やそれを支える専門職の役割と機能、職種間の連携などを探究する科目:「継続療養支援開発看護学特講」

(3)研究科目: 基盤科目、専門科目をもとに「看護学特別研究I・II・III」を通して、地域医療に貢献するための思考力と確かな研究力を養い、自立的に研究を遂行し看護学を探究する能力を高める。

・研究力を深化させ、看護に関する広い視野を身につけ看護学の発展に貢献する力を養う科目:「看護学特別研究I・II・III」

5.教育研究目的

中山間地域の保健医療の課題に対して、対応できる力を育成するとともに、思考力と確かな研究力により、地域医療・看護領域における新たな理論を探究する。具体的には、中山間地域の子どもから高齢者までの世代間の特性を把握し、こころの安寧に配慮した健康の維持・増進、疾病の重症化予防、ならびに介護予防の視点を重視した保健医療福祉のシステムの構築を目指す。さらに、病院医療から在宅医療への移行に伴う継続看護の役割・意義について探求し、切れ目ない療養支援のモデルの開発を目指し、全世代型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い看護研究者を育成する。

6.育成する人材像

中山間地域に暮らすすべての世代の「こころ」と「身体」の健康を支えるために、全世代型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い看護研究者を育成し、教育研究機関、行政機関、医療機関等で活躍する人材を輩出する。

<ディプロマ・ポリシー>

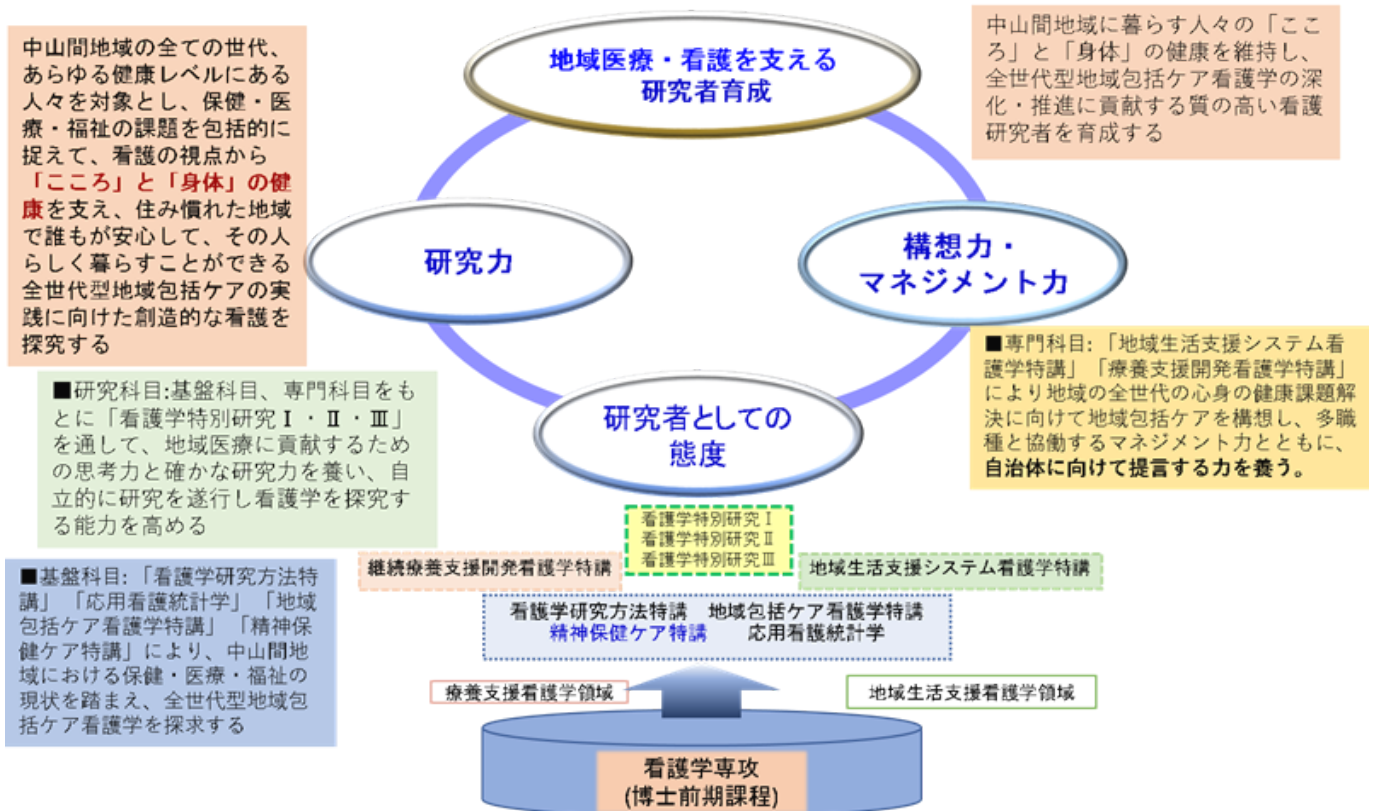
健康科学研究科の定める期間在学し、研究科の教育目標及び看護学専攻の教育目的に沿って設定された授業科目を履修し、基準となる単位数以上を修得し、かつ研究指導に基づいて執筆・提出した博士論文の審査及び最終試験に合格すること。そのうえに、以下の要件を満たした者として、博士(看護学)の学位を授与する。

①研究者としての高い倫理観と使命感を持ち、課題解決に向け主体的に取り組む姿勢を有している
【研究者としての態度】

②全世代のこころと身体を健康を支援する地域包括ケアを構想し、多職種と協働するマネジメント力
【構想力、マネジメント力】

③地域医療・看護の質の向上と発展に寄与する研究を自ら構想・遂行する能力を有している
【研究力】

中山間地域の全世代型地域包括ケア看護学の探求



本学の博士課程について

1

学年

- 1年
- 2年
- 3年
- 4年

2

本学には既に修士課程が設置されています。あなたは本学の修士課程へ進学したいと思いますか。

- 進学したい
- 機会があれば進学したい
- 今後、必要を感じた場合には進学を考える
- 進学したくない

その他

3

修士課程へ進学を希望する理由を教えてください（複数回答可）。

- 教育内容に魅力を感じたから
- 高度な専門知識と研究力を身に付けたいから
- 修士号を取得し、キャリアアップを図りたいから
- 丁寧な教育・指導が期待できるから
- 学士課程での学びをさらに深められるから
- 学費が適正だから

その他

4

修士課程へ進学を希望しない理由を教えてください（複数回答可）。

- 修士号を取得する必要性を感じないから
- 教育内容に魅力を感じないから
- 他の大学院への進学を検討しているから
- 新設の大学院に進学するのは不安だから
- 研究したいテーマが見つからないから
- 社会に出て仕事がしたいから
- 学費が高いから
- 家庭の事情

その他

5

あなたは博士課程への進学に関心がありますか。

- とても関心がある
- やや関心はある
- あまり関心がない
- まったく関心がない

6

博士課程に進学するとしたら、本学の博士課程に進学したいと思いますか。

- 進学したい
- 機会があれば進学したい
- 今後、必要を感じた場合には進学を考える
- 進学したくない

その他

7

進学を希望する理由を教えてください（複数回答可）。

- 教育内容に魅力を感じたから
- 高度な専門知識と研究力を身に付けたいから
- 博士号を取得し、キャリアアップを図りたいから
- 丁寧な教育・指導が期待できるから
- 修士課程での学びをさらに深められるから
- 学費が適正だから

その他

8

進学を希望しない理由を教えてください（複数回答可）。

- 博士号を取得する必要性を感じないから
- 教育内容に魅力を感じないから
- 他の大学院への進学を検討しているから
- 新設の大学院に進学するのは不安だから
- 研究したいテーマが見つからないから
- 社会に出て仕事がしたいから
- 学費が高いから
- 家庭の事情

その他

9

本学の修士課程・博士課程に進学するとしたら、どのような条件や支援を希望しますか（複数回答可）。

- 入学金の免除・減免
- 授業料の免除・減免
- 奨学金の給付・貸与
- 夜間開講の授業
- 土曜日開講の授業
- インターネットを利用したオンライン授業
- サテライト・キャンパスでの授業（倉敷市内）
- 長期履修学生制度（標準修業年限の延長）

その他

本学の博士課程設置についてご要望・ご意見などございましたらお聞かせください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

【看護学科学生調査】

新見公立大学大学院 看護学研究科※
看護学専攻 博士課程に関するアンケート 結果

2022年4月「健康科学研究科」へ名称変更予定

調査概要

調査目的	新見公立大学健康科学部看護学科に在籍する学生の本学大学院看護学研究科修士課程および博士後期課程への進学意向や進学理由、本大学院に求める条件や支援などを明らかにする。
調査方法	Microsoft Forms によるオンラインアンケート調査 授業前後の時間を利用し、対象者へ本調査の趣旨、大学院の設置目的、特色等を口頭で説明したのち、アンケートへの回答を依頼した。
調査対象	新見公立大学健康科学部看護学科 1～4 年生 314 人
調査期間	2022 年 2 月 1 日～2 月 15 日
回答者数	270 人(回答率 85.9%)
調査実施主体	新見公立大学大学院改組部会

1. 学年

	人数	%
1 年	60	22.3
2 年	78	29.0
3 年	71	26.4
4 年	60	22.3
合計	269	100

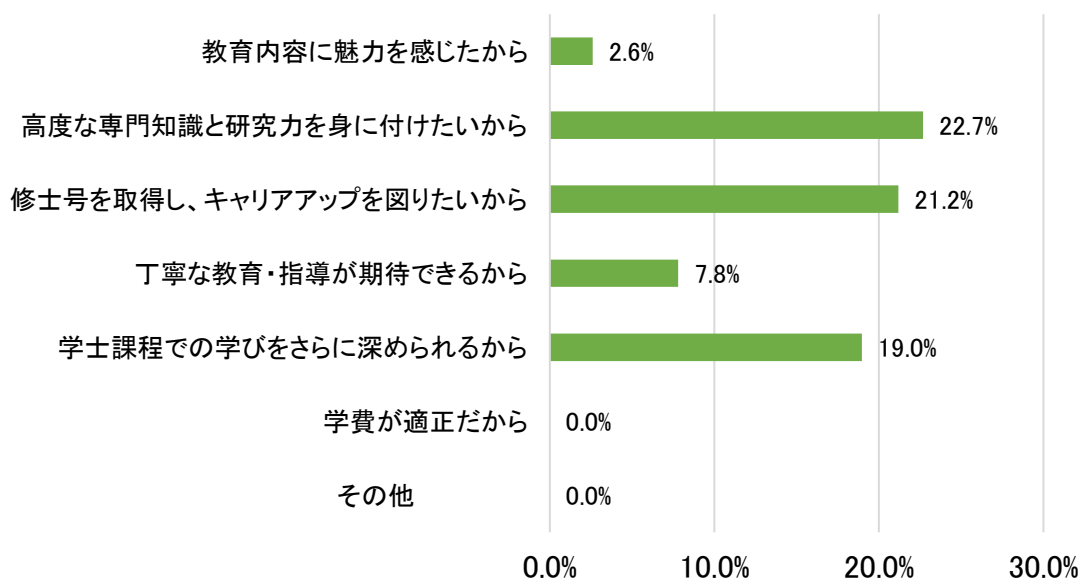
2. 本学には既に修士課程が設置されています。

あなたは本学の修士課程へ進学したいと思いますか。

	人数	%
進学したい	0	0
機会があれば進学したい	12	4.5
今後、必要を感じた場合には進学を考える	130	48.3
進学したくない	127	47.2
その他	1	0.4
合計	269	100

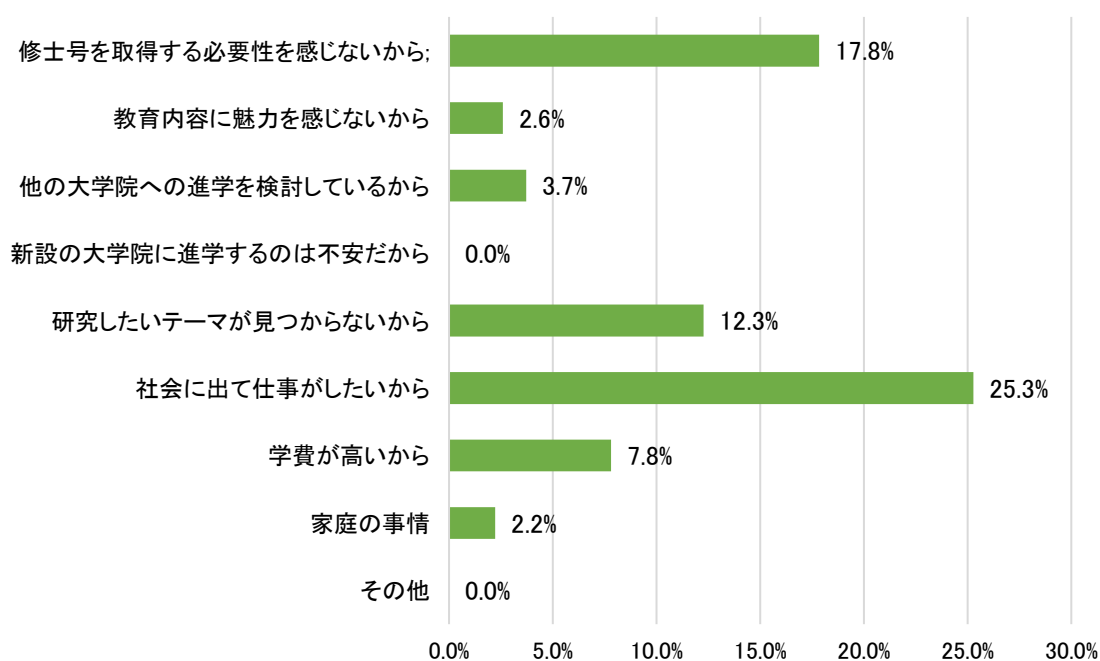
3. 修士課程へ進学を希望する理由を教えてください(複数回答可)。

※先の質問2で「進学したい」「機会があれば進学したい」「今後、必要を感じた場合には進学を考える」と回答した者のみに回答を求めた。



4. 修士課程へ進学を希望しない理由を教えてください(複数回答可)。

※先の質問2で「進学したくない」と回答した者のみに回答を求めた。



5. あなたは博士課程への進学に関心がありますか。

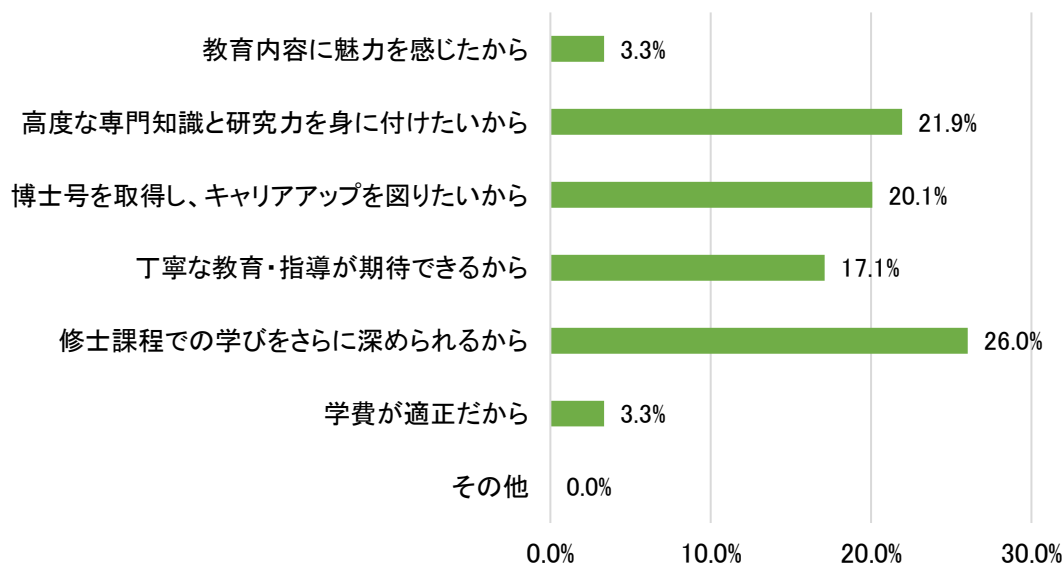
	人数	%
まったく関心がない	54	20.1
あまり関心がない	141	52.4
やや関心はある	66	24.5
とても関心がある	8	3.0
合計	269	100

6. 博士課程に進学するとしたら、本学の博士課程に進学したいと思いますか。

	人数	%
進学したい	14	5.2
機会があれば進学したい	36	13.4
今後、必要を感じた場合には進学を考える	126	46.8
進学したくない	91	33.8
不明	2	0.7
合計	269	100

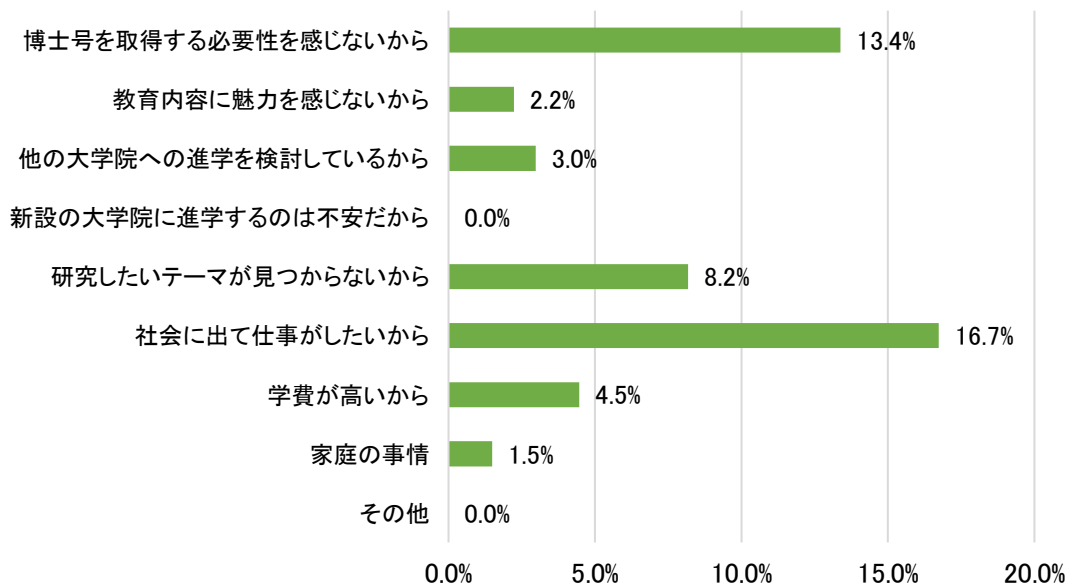
7. 博士課程へ進学を希望する理由を教えてください(複数回答可)。

※先の質問6で「進学したい」「機会があれば進学したい」「今後、必要を感じた場合には進学を考える」と回答した者のみに回答を求めた。

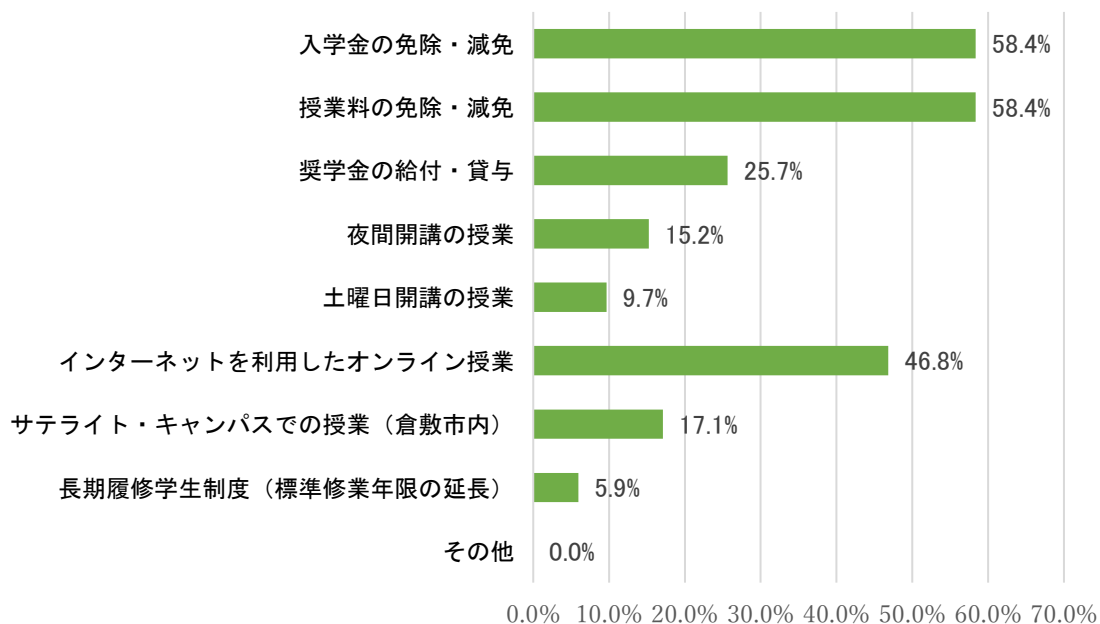


8. 博士課程へ進学を希望しない理由を教えてください(複数回答可)。

※先の質問6で「進学したくない」と回答した者のみに回答を求めた。



9. 本学の修士課程・博士課程に進学するとしたら、どのような条件や支援を希望しますか(複数回答可)。



10. 本学の博士課程設置についてご要望・ご意見などございましたらお聞かせください。

具体的なイメージが全く湧かないので、実際に看護学の修士博士を取得した人の話を聞ける機会があればいいと思います。

【看護学科教員対象調査】

新見公立大学大学院 看護学研究科※

看護学専攻 博士課程に関するアンケート

下記の「看護学専攻 博士後期課程（設置構想中）の概要」をご参照のうえ、以下のアンケートにご協力いただきますようよろしくお願いいたします。なお、アンケートは無記名で行い、回答により個人が特定されることは決してありません。忌憚のないご意見をぜひお寄せください。また、アンケートで得られた情報や回答は、上記の目的のための統計資料としてのみ利用し、目的以外に利用することはありません。

※2022年4月「健康科学研究科」へ名称変更予定

「看護学専攻 博士後期課程（設置構想中）の概要」

設置の必要性

超少子高齢化と人口減少の進む中山間地域の保健・医療・福祉の現状と将来予測を踏まえ、全ての世代の「こころ」と「身体」の健康を支えるために、看護の視点から全世代型・全対象型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い研究者の育成は重要であり、地域社会からの期待も大きいと判断される。

近年、多様化・複雑化・複合化している人々の健康課題に対し、多職種で協働しながら連続的・継続的にアプローチする重層的支援体制が必要となっている。特に、近年は地域の特性に応じた身体的・精神的に安定できる居場所づくりと共に、病院から在宅への移行支援の推進を含めた地域包括ケアシステムの構築が求められており、注)。日常生活圏域において、誰もが安心して自分らしく生活することができるよう、全世代型地域包括ケア看護学の探究ができる人材を養成することが求められている。

典型的中山間地域に位置する本学では、学部看護基礎教育から地域医療に特化した科目を配置し、切れ目のない病院医療と在宅医療での継続看護の役割について学修している。また、「保健師教育」選択制に加えて、2019年には、新たに「養護教諭」「訪問看護・地域看護コース」を設置し、子どもから高齢者まで全世代を対象とした地域包括ケア看護学の教育基盤の構築を進めている。向後は本課程での研究成果を活かして教育基盤の深化を目指していく必要がある。

現在、修士課程の2年間で種々の研究課題に取り組んでいるが、実態把握と課題抽出に留まっている。研究科に博士後期課程を設置し、前期・後期課程を通して、中山間地域における健康課題に

取り組み、その解決策を自治体に向けて提言し得るレベルの研究として実施していくことが、本学の使命であると考えている。

以上の要素を勘案して、研究科に博士後期課程を設置して、研究成果を広く社会に発信し、地域の保健・医療・福祉、ならびに看護の質的向上に寄与するとともに、地域社会の発展に貢献する看護研究者の育成を目指すこととした。

看護学専攻(博士後期課程)の特色

教育研究上の理念・目標を達成するために、本学の特色として以下の3科目を配置する。

(1)基盤科目: 中山間地域における保健・医療・福祉の現状を踏まえ、全世代型地域包括ケア看護学を探究する。

・保健・医療・福祉システムにおける看護政策の動向を踏まえ、看護の現状と課題・あり方について探究する力を養う科目:「看護学研究方法特講」「応用看護統計学」

・全世代型地域包括ケア看護学を構想し、その深化・推進に貢献する質の高い看護専門職を育成する科目:「地域包括ケア看護学特講」「精神保健ケア特講」

(2)専門科目: 地域の全世代の心身の健康課題解決に向けて地域包括ケアを構想し、多職種と協働するマネジメント力とともに、自治体に向けて提言する力を養う。

・中山間地域で生活する人々の看護の課題、こころと身体健康と生活課題への支援、保健・医療・福祉の連携を含めた地域の現状や将来予測を踏まえ、看護の課題を探究し、分析する力を養う科目:「地域支援システム看護学特講」

・医療機関から在宅や地域などへの療養の場の意向やそれを支える専門職の役割と機能、職種間の連携などを探究する科目:「継続療養支援開発看護学特講」

(3)研究科目: 基盤科目、専門科目をもとに「看護学特別研究I・II・III」を通して、地域医療に貢献するための思考力と確かな研究力を養い、自立的に研究を遂行し看護学を探究する能力を高める。

・研究力を深化させ、看護に関する広い視野を身につけ看護学の発展に貢献する力を養う科目:「看護学特別研究I・II・III」

5.教育研究目的

中山間地域の保健医療の課題に対して、対応できる力を育成するとともに、思考力と確かな研究力により、地域医療・看護領域における新たな理論を探究する。具体的には、中山間地域の子どもから高齢者までの世代間の特性を把握し、こころの安寧に配慮した健康の維持・増進、疾病の重症化予防、ならびに介護予防の視点を重視した保健医療福祉のシステムの構築を目指す。さらに、病院医療から在宅医療への移行に伴う継続看護の役割・意義について探求し、切れ目ない療養支援のモデルの開発を目指す。全世代型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い看護研究者を育成する。

6.育成する人材像

中山間地域に暮らすすべての世代の「こころ」と「身体」の健康を支えるために、全世代型地域包括ケア看護学の深化・推進に貢献する質の高い看護研究者を育成し、教育研究機関、行政機関、医療機関等で活躍する人材を輩出する。

<ディプロマ・ポリシー>

健康科学研究科の定める期間在学し、研究科の教育目標及び看護学専攻の教育目的に沿って設定

された授業科目を履修し、基準となる単位数以上を修得し、かつ研究指導に基づいて執筆・提出した博士論文の審査及び最終試験に合格すること。そのうえで、以下の要件を満たした者として、博士(看護学)の学位を授与する。

①研究者としての高い倫理観と使命感を持ち、課題解決に向け主体的に取り組む姿勢を有している

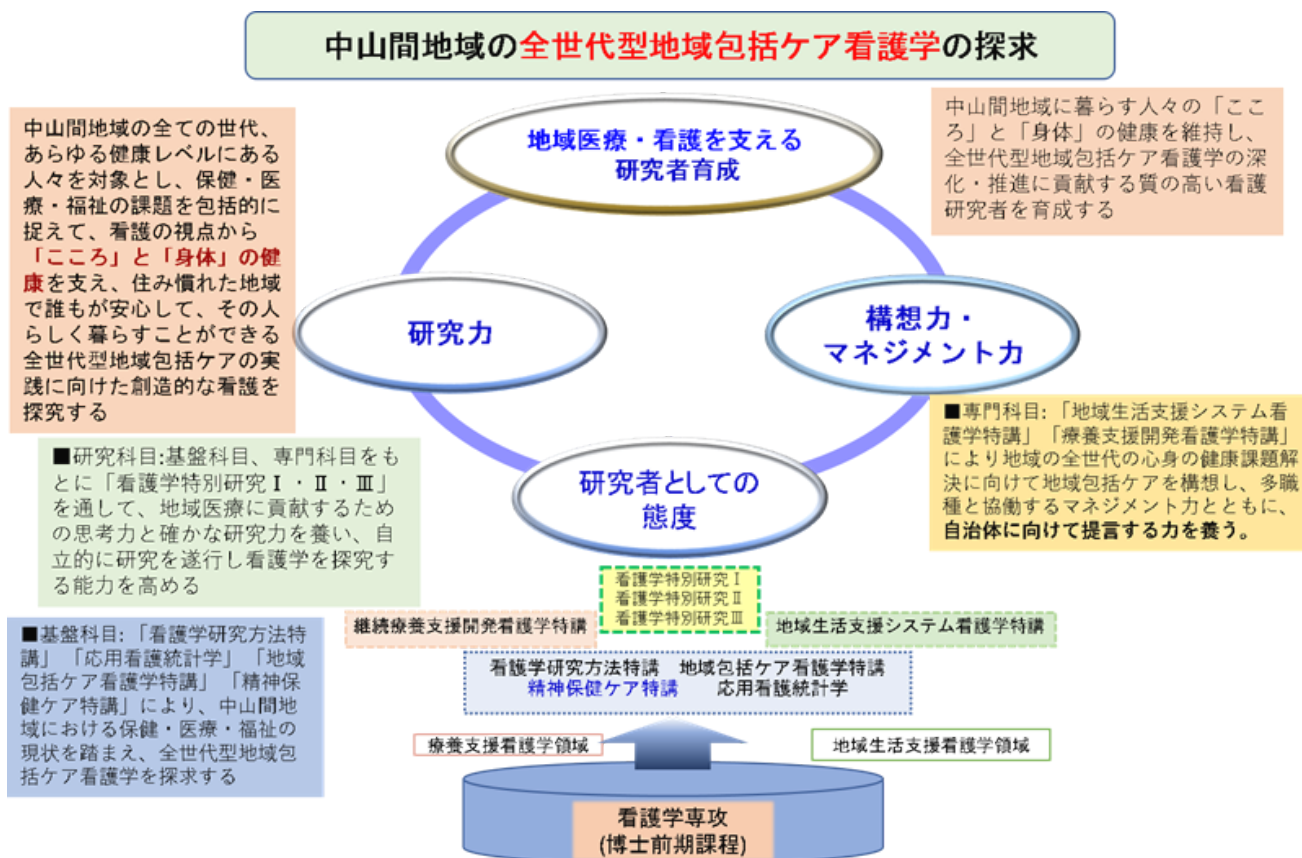
【研究者としての態度】

②全世代のこころと身体を健康を支援する地域包括ケアを構想し、多職種と協働するマネジメント力を有している

【構想力、マネジメント力】

③地域医療・看護の質の向上と発展に寄与する研究を自ら構想・遂行する能力を有している

【研究力】



本学の博士課程について

1

あなたは博士課程への進学に関心がありますか。

- とても関心がある
- やや関心はある
- あまり関心がない
- まったく関心がない

2

博士課程に進学するとしたら、本学の博士課程に進学したいと思いますか。

- 進学したい
- 機会があれば進学したい
- 今後、必要を感じた場合には進学を考える
- 進学したくない

その他

3

進学を希望する理由を教えてください（複数回答可）。

- 教育内容に魅力を感じたから
- 高度な専門知識と研究力を身に付けたいから
- 博士号を取得し、キャリアアップを図りたいから
- 丁寧な教育・指導が期待できるから
- 修士課程での学びをさらに深められるから
- 学費が適正だから

その他

4

進学を希望しない理由を教えてください（複数回答可）。

- すでに他の大学院の博士課程に進学しているから（進学していたから）
- 博士号を取得する必要性を感じないから
- 教育内容に魅力を感じないから
- 他の大学院への進学を検討しているから
- 新設の大学院に進学するのは不安だから
- 研究したいテーマが見つからないから
- 社会に出て仕事がしたいから
- 学費が高いから
- 家庭の事情

その他

5

本学の修士課程・博士課程に進学するとしたら、どのような条件や支援を希望しますか（複数回答可）。

- 入学金の免除・減免
- 授業料の免除・減免
- 奨学金の給付・貸与
- 夜間開講の授業
- 土曜日開講の授業
- インターネットを利用したオンライン授業
- サテライト・キャンパスでの授業（倉敷市内）
- 長期履修学生制度（標準修業年限の延長）

その他

6

本学の博士課程設置についてご要望・ご意見などございましたらお聞かせください。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

【看護学科教員対象調査】

新見公立大学大学院 看護学研究科※
看護学専攻 博士課程に関するアンケート調査結果

※2022年4月「健康科学研究科」へ名称変更予定

調査概要

調査目的	新見公立大学健康科学部看護学科に所属する教員の本学大学院看護学研究科博士後期課程への進学意向や進学理由、本大学院に求める条件や支援などを明らかにする。
調査方法	Microsoft Forms によるオンラインアンケート調査 本学のポータルサイト(UNIVERSAL PASSPORT)の掲示板を利用して、対象者へアンケートの回答を依頼した。
調査対象	新見公立大学健康科学部看護学科専任教員 17 人※ ※看護学科の専任教員は 35 人いるが、本学大学院の教員は除外している。 また、他のアンケートとの回答の重複を避けるため、本学大学院修士課程に在籍または修了した者は対象から除外している。
調査期間	2022年3月10日～3月11日
回答者数	6人(回答率 35.2%)
調査実施主体	新見公立大学大学院改組部会

1. あなたは博士課程への進学に関心がありますか。

	人数	%
まったく関心がない	0	0
あまり関心がない	0	0
やや関心はある	6	100
とても関心がある	0	0
合計	6	100

2. 博士課程に進学するとしたら、本学の博士課程に進学したいと思いますか。

	人数	%
進学したい	0	0
機会があれば進学したい	1	16.7
今後、必要を感じた場合には進学を考える	4	66.6
進学したくない	1	16.7
合計	6	100

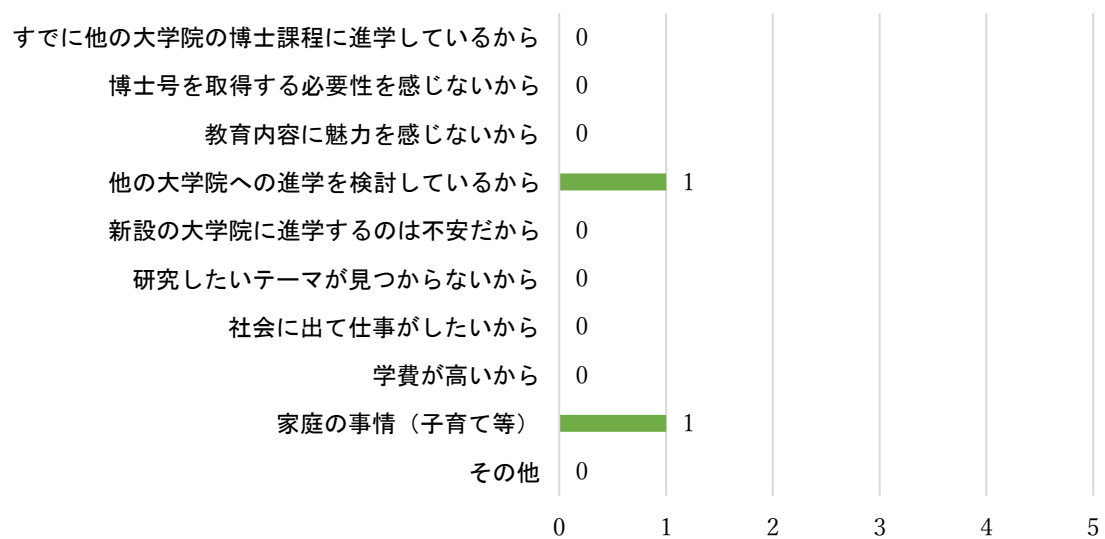
3. 進学を希望する理由を教えてください(複数回答可)。

単位(人)

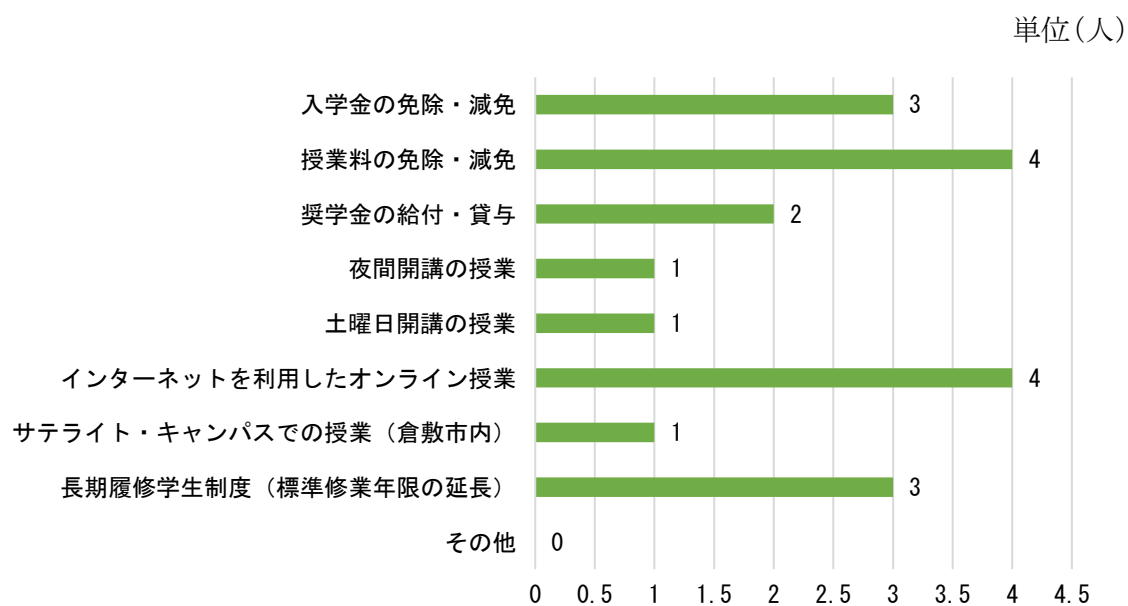


4. 進学を希望しない理由を教えてください(複数回答可)。

単位(人)



5. 本学の修士課程・博士課程に進学するとしたら、どのような条件や支援を希望しますか
(複数回答可)。



6. 本学の博士課程設置についてご要望・ご意見などございましたらお聞かせください。

・指導教員の確保・充実

- 1 学生確保の見通し等を記載した書類 資料14
第8次岡山県保健医療計画 高梁・新見保健医療圏
- 2 出典
岡山県「第8次岡山県保健医療計画 高梁・新見保健医療圏」
- 3 アドレス
https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/710082_6388455_misc.pdf
- 4 岡山県ホームページから当該資料を取得し、加工せずに掲載した。

新見公立大学大学院健康科学研究科看護学専攻博士後期課程設置に関する要望書

全国的な少子高齢化の進行や人口の東京一極集中、高度情報化を背景としたグローバル化、環境保全や省資源への要請の高まりなど本市を取り巻く環境は大きく変化してきました。特に、本市では、これまでの想定を超えた速さで人口減少が進行しており、市全体の活力低下などが懸念される状況にあります。

こうした中で平成30年度に「新見市版地域共生社会構築計画」を策定し、社会全体で市民生活や地域社会を支え、盛り立てていく仕組みの一環として「大学を活かしたまちづくり」を進めているところです。

「大学を活かしたまちづくり」では、貴大学が本市に設置されている利点を最大限に活かし、本市の活性化や課題解決を図っていくために、市民・市・大学が一つになって種々の取組を実践できることが本市にとって大きな強みとなっています。貴大学が本市の重要な地域資源であることを踏まえ、小規模多機能自治の推進とともに地域共生社会の構築に向けた取組において、貴大学が持つ様々な資源の有効活用が今後益々重要になってくると考えています。

貴大学においては、平成31年4月に、課題先進地域にある地の利を活かし、地域を拓く「健康科学部」として、1学部3学科（健康保育学科、看護学科、地域福祉学科）に改組されました。人の生活基盤を支える3学科が協働して、「健やかな子どもの成長、心の豊かさの向上、高齢者の健康寿命の延伸」を指標として、地域共生社会の構築における3学科の役割と多職種連携を実践的に研究・教育されています。「地域で全ての世代の心と体の健康を切れ目なく支援する」ために、新たに発達障害児と病児への対応、特別支援学校教諭と養護教諭の養成、社会的弱者を護る社会福祉士の養成等に取り組み、本市全域をキャンパスとして、人に優しい地域共生社会の構築を検証しながら、地域貢献活動に取り組まれています。

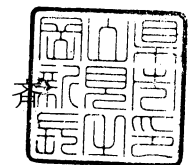
地域共生社会の実現は、人口減少と少子高齢化に直面している本市はもとより、日本の全ての中山間地域の自治体において喫緊の課題であります。保健・医療・福祉の増進と地域医療の発展のためにも、中山間地域に暮らす全ての世代の「こころ」と「身体」の健康を支えるために、「全世代型地域包括ケア看護学」の深化・推進に貢献する質の高い看護研究者の育成を目指す新見公立大学大学院健康科学研究科看護学専攻博士後期課程の設置を強く要望いたします。

令和4年2月28日

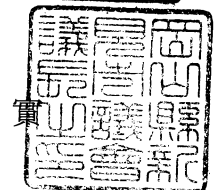
公立大学法人新見公立大学

理事長 公文裕巳 様

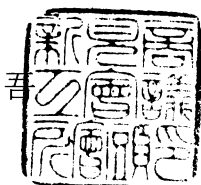
新見市長 戎



新見市議会議長 石田



新見商工会議所会頭 林田昌吾



令和4年2月28日

公立大学法人新見公立大学
理事長 公文裕巳 様

一般社団法人新見医師会
会長 太田隆 正



新見公立大学大学院(健康科学研究科看護学専攻博士後期課程)設置に関する要望書

現在、医療界では医師不足、看護師不足が大きな課題となっています。特に、医師の地域間での偏在が大きな問題ではありますが、看護師においても同様であります。その上に、近年の医療の高度化、専門化、医療制度の改革などにより、保健・医療・看護の対象がより広範囲かつ専門化され、医療の提供体制においても都市部と中山間地域との格差が拡がりつつあります。貴大学においては、地域住民の学習機会の拡充のため、公開講座や講演会の開催、中山間部における地域密着型介護予防活動や高齢者を対象とした健康・生活相談事業の実施など地域に密着した活動を推進して頂いています。

一方、新見市における高齢化は著しく進行し、要介護高齢者の増加に伴う専門職の必要性や介護予備軍といわれる虚弱高齢者の健康支援が地域の重要課題となっています。これらは、単に新見市における課題というだけでなく、日本の中山間地域における共通の課題と判断されます。

このことから、地域の健康問題の変化に対するより専門的な対応が地域のニーズであり、日常の健康支援や介護予防の視点からの看護の課題、ならびに病院医療と在宅医療との継続性の観点からの看護の課題、ならびに多職種連携を基本とする地域包括ケアシステムの構築が求められています。これらの多面的課題に対応できる看護師が少しでも多く地域に定着し、地域の医療に携わって欲しいと思います。

年々、高度な先進医療が進歩していくなか、多様化・複雑化・複合化している人々の健康課題に対し、多職種で協働しながら連続的・継続的にアプローチする重層的支援体制が必要であり、中山間地域に特化した包括的なケアシステムの構築が課題となっています。

以上のような理由で、「中山間地域の全世代型地域包括ケア看護学」の深化・推進を目指す新見公立大学大学院健康科学研究科看護学専攻博士後期課程の設置を強く要望するものであります。

公立大学法人新見公立大学
理事長 公文裕巳 様

要 望 書

令和4年2月16日

公益社団法人岡山県看護協会

新見公立大学大学院健康科学研究科看護学専攻（博士後期課程）設置の要望について

近年、少子化と高齢化の同時進行による人口減少社会へと突入する我が国において、2025年を目途に進められてきた「医療機能分化・連携」と「地域包括ケアシステムの構築」は、大詰めの段階に差し掛かり、現在、さらにその先2040年の少子・超高齢・労働人口減少社会を見据えた取り組みが推進されているところです。今後、85歳以上人口が高齢人口の3割を占め、更なる高齢化の進展、また、単身世帯の増加による高齢者世帯の孤立化、就職氷河期世代の高齢化に伴う生活の困窮化など、家族・地域社会の変容、保健・医療・福祉ニーズの複雑・多様化に伴う「地域包括ケアシステム」の進化が求められています。

このような時代のニーズに応えるため、岡山県看護協会は「全世代型の地域包括ケアを支える看護提供体制」の構築、専門職としてのキャリア継続の支援、看護基礎教育4年制化に向けた制度改革の推進等、5つの重点事業に取り組んでいます。

新見公立大学におかれては、開学以来41年間、地域に根差した看護基礎教育に取り組んでこられました。短期大学から4年制大学への移行に続き、助産学校専攻科ならびに大学院看護学研究科修士課程を設置されました。看護学研究科では7年間、修士課程での教育・研究を実践し、この間、保健医療分野における多くの看護専門職、地域医療を支える看護実践者、地域を包括する視野を持つ教育者・研究者を輩出し、地域・社会のニーズに対応してこられました。

岡山県北の中山間地域にあります新見市は、高齢化率が40%を超え、地域医療に関する課題を抱えています。その地域特性を活かした特色あるカリキュラムとして、看護基礎教育課程に全国初の訪問看護・地域看護コースを設置し、より課題解決に向けた取り組みが行われています。今後、学部の看護基礎教育課程、修士課程に加えて、博士課程での地域医療が抱える健康課題を追求することで学習体制が整い、地域包括ケアシステムの中で看護学のさらなる進化（発展）が期待されます。

職能団体としても、看護界の発展の礎となる大学院教育は必要と考え、貴学における、地域に密着した特色を生かした取り組みは、社会のニーズを踏まえた質の高い看護の提供に寄与するものであると考えます。

以上のことから、新見公立大学大学院健康科学研究科看護学専攻（博士後期課程）の設置を強く要望するものであります。

公益社団法人岡山県看護協会

会長 宮田明

